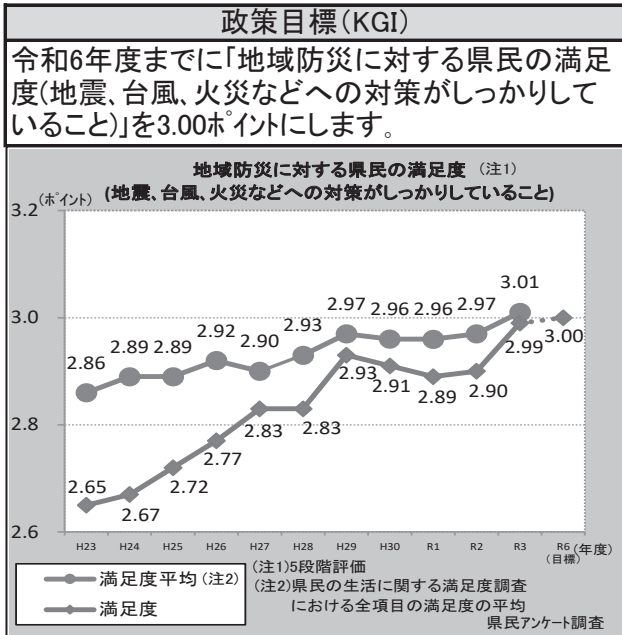


Ⅲ 愉しむ「都」をつくる

|                |
|----------------|
| 坊              |
| 6 「安全安心な地域」づくり |

|                     |
|---------------------|
| 担当部局等               |
| 危機管理監、<br>県土マネジメント部 |

政策目標(KGI)達成に向けた進捗状況



| 基準値   | 実績値(a)                | 進捗状況   |          | 目標値<br>(達成率)    |
|---|-----------------------|--------|----------|-----------------|
|   |                       | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |                 |
| H23年度   | R3年度                  | R3年度   | 102.4%   | R6年度            |
| 2.65  | 2.99<br>+0.34<br>ポイント | 2.92   | ①100%以上  | 3.00<br>(97.1%) |
| 指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)   |                       |        |          |                 |
| 近年は横ばいで推移していましたが、直近の令和3年度は2.99ポイントと前年から大きく上昇し進捗率は100%を超えて、基準値から、順調に上昇しています。 |                       |        |          |                 |
| 背景・要因等  |                       |        |          |                 |
| 近年、地震等災害の発生が多いことから、県民の防災対策への関心が高まってきていることが考えられます。                           |                       |        |          |                 |

関連する戦略目標(KPI)の進捗状況

| テーマ   | 基準値  | 実績値(a) | 進捗状況   |          | 目標値<br>(達成率) |
|---|------|--------|--------|----------|--------------|
| 戦略目標(KPI)   |      |        | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |              |
| (29) 大規模広域防災拠点の整備                                     |      |        |        |          |              |
| 大規模広域防災拠点(600m・2,000m級滑走路付)の早期整備を目指します。               |      |        |        |          |              |
| (30) 消防学校教育の充実、県内広域消防組織への支援                           | H25年 | R2年    |        |          | R3年          |
| 令和3年までに119番通報から病院が受け入れるまでに要した時間を全国平均よりも短縮します。         | 43.8 | 40.7   |        |          | 全国平均より短縮     |
| (31) 大和川直轄遊水地と流域内水遊水地の整備                              |      |        |        |          |              |
| 平成緊急内水対策事業において、令和7年度までに100年に1度の大雨に耐える貯留量の50%確保を目指します。 |      |        |        |          |              |
|   |      |        |        |          |              |

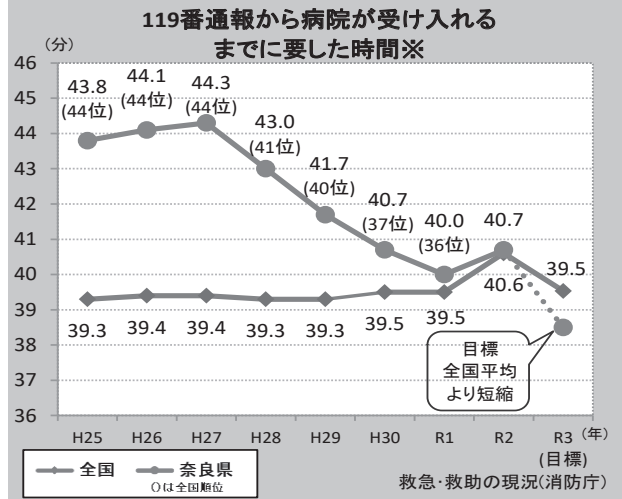
| テーマ<br>戦略目標(KPI)  | 基準値 | 実績値(a) | 進捗状況   |          | 目標値   |
|---|-----|--------|--------|----------|-------|
|   |     |        | 目安値(b) | 進捗率(a/b) | (達成率) |
| (32) 土砂災害対策の推進<br><br>令和5年度までに土砂災害特別警戒区域内に立地する「24時間利用の要配慮者利用施設」や「代替性のない避難所」を保全する対策の着手を30カ所にします。 |     |        |        |          |       |
| (33) 日本一災害に強い奈良県を目指す対策<br><br>奈良県で災害が起きても犠牲者を出さないようにします。  |     |        |        |          |       |
| (34) 自然災害時の避難活動の円滑化<br><br>避難体制について点検・見直しを行い、いざという時の避難行動に万全を期します。                               |     |        |        |          |       |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                             |
|-----|-----------------------------|
| 坊   | 6「安全安心な地域」づくり               |
| テーマ | (30) 消防学校教育の充実、県内広域消防組織への支援 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| 知事公室            |
| 消防救急課長          |

**戦略目標(KPI)**  
令和3年までに119番通報から病院が受け入れるまでに要した時間を全国平均よりも短縮します。



| 基準値  | 実績値(a) | 進捗状況   |          | 目標値 (達成率) |
|------|--------|--------|----------|-----------|
|      |        | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |           |
| H25年 | 43.8   | R2年    | 40.7     | R3年       |
|      | ▲3.1分  |        |          | 全国平均より短縮  |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)  
119番通報から病院が受け入れるまでに要した時間は、平成27年は44.3分(全国44位)、令和元年度は40.0分(全国36位)で4分弱の短縮を実現しました。しかし、令和2年度は40.7分(全国平均40.6分)で、0.7分の延長となりました。

**背景・要因等**  
救急隊が患者を搬送する際に使用する奈良県救急医療管制システム(e-MATCH)の効果的な運用によるものですが、令和2年度は全国的な傾向として、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、時間の延長となりました。

※は数値が低い方が良くなる指標です。

| KPI達成に向けた取組・成果 |   |
|----------------|---|
| <b>取組</b>      | 奈良県における救急搬送ルールの策定や見直し等を行っている「奈良県救急搬送及び医療連携協議会」の専門部会を開催しました。 |
| <b>成果</b>      | 搬送実施基準の見直しや奈良県救急医療管制システム(e-MATCH)の改修に向けた取り組み方針について整理しました。   |

| KPI関連指標                    | 指標の動き |       |       |      | 指標の動きの要因                |  |
|----------------------------|-------|-------|-------|------|-------------------------|--|
|                            | H29年度 | H30年度 | R1年度  | R2年度 | 新型コロナウイルス感染症の蔓延によるためです。 |  |
| 病院照会回数4回以上の推移(重症以上傷病者)※(%) | 3.5   | 2.5   | 1.7   | 1.9  |                         |  |
|                            | ▲1.0% | ▲0.8% | +0.2% |      |                         |  |

※は数値が低い方が良くなる指標です。

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

| KPI達成等に向けた課題                             | 課題の背景・要因  | 課題解決のための今後の取組方針  |
|--|---|--|
| 奈良県に適したより良い搬送ルールを策定し、県民サービスを実施することが課題です。 | 奈良県救急医療管制システム(e-MATCH)へのデータ入力 mismatches が少なからずあるため、医療機関と消防機関の連携に時間を要しているところがあります。                              | より効果的な運用を実施するため、e-MATCHの操作指導を徹底するとともに、e-MATCHの改修(令和4年度)を進めていきます。<br><br>「奈良県救急搬送及び医療連携協議会」における救急搬送ルールの改善や「奈良県メディカルコントロール協議会」による救急業務の高度化などの取組により、消防と医療機関の連携体制の強化を図っていきます。 |
|  | <b>今年度の取組(~7月)</b><br>奈良県救急医療管制システム(e-MATCH)の改修に向けて関係機関・業者と調整を行いました。併せて搬送困難対策として新型コロナウイルス感染症対応への改修について検討を行いました。 |  |

数値目標が設定されていないテーマ等の進捗状況、課題の明確化、今後の取組方針

|   |                   |  |            |
|---|-------------------|--|------------|
| 坊                                       | 6「安全安心な地域」づくり     | CC   | 県土マネジメント部長 |
| テーマ                                     | (29) 大規模広域防災拠点の整備 |  |            |
| 戦略目標(KPI)                               |                   | 進捗状況及び取組・成果  |            |
| 大規模広域防災拠点(600m・2,000m級滑走路付)の早期整備を目指します。 |                   | 五條市内で整備を進めている大規模広域防災拠点について、整備予定箇所での各種検討(補償調査、地質調査、造成設計等)を進めました。<br>有識者の知見や内閣府の指導を得て、大規模広域防災拠点のあり方や導入すべき機能、施設規模など、県の基本的な考え方をとりまとめた「奈良県大規模広域防災拠点整備基本計画」を令和3年6月に策定しました。<br>令和3年度末までに、五條市の協力を得て五條市上野公園総合体育館(シターアリーナ)において計5回の地元説明会を開催したほか、個別の自治会へ計18回の説明会を開催しました。 |            |

| KPI達成等に向けた課題                                    | 課題の背景・要因  | 課題解決のための今後の取組方針   |
|---|---|---|
| 大規模広域防災拠点の早期整備に向けて、必要な用地の取得や運用方針の検討、財源の確保が課題です。 | 大規模広域防災拠点の早期効果発現には、広範囲に渡る地元の理解と多くの地権者の同意が必要です。<br>災害時に拠点を活用する複数の関係機関との調整のほか、多額の事業費に対する財源の確保が必要です。 | 測量・地質調査・実施設計等を進め、I期の準備工事に着手します。<br>引き続き工事用道路など必要な用地の取得を進めます。<br>関係機関へのヒアリングを重ね、災害時のオペレーションや平常時の活用について調整を行うなど、大規模広域防災拠点の具体的な運用方針を検討していきます。 |
|   | 今年度の取組(~7月)   |   |
|   | II期整備に必要なゴルフ場の土地について契約を行いました。   | 整備にかかる財源として、緊急防災・減災事業債の適用等、長期にわたる継続的な支援を国に要望していきます。   |

|   |                          |   |                     |
|---|--------------------------|---|---------------------|
| 坊   | 6「安全安心な地域」づくり            | CC  | 県土マネジメント部<br>河川整備課長 |
| テーマ   | (31) 大和川直轄遊水地と流域内水遊水地の整備 |   |                     |
| 戦略目標(KPI)   |                          | 進捗状況及び取組・成果                                   |                     |
| 平成緊急内水対策事業において、令和7年度までに100年に1度の大雨に耐える貯留量の50%確保を目指します。 |                          | 令和3年度は、適地候補地39箇所のうち15箇所(新規3箇所)において事業を実施しています。 |                     |

| KPI達成等に向けた課題   | 課題の背景・要因  | 課題解決のための今後の取組方針   |
|--|---|---|
| 各市町の取組について、上下流や地域間により事業進捗にバラツキがあり、どのように底上げを図るかが課題です。 | 事業を進めるにあたり、地元調整及び用地取得の難航等により、進捗が伸び悩んでいる市町があります。 | 関係市町が参画する大和川流域水害対策協議会において、進捗状況の課題解決に向けた議論を行います。             |
|  | 今年度の取組(~7月)                                     |   |
|  | 事業の見える化を図るため、詳細な進捗状況を把握しました。                    | 各市町における進捗状況の「見える化」を図り、目指すべき方向性のバラツキをなくし、流域が一体となって取組意識を高めます。 |

|  |                |  |                                |
|--|----------------|--|--------------------------------|
| 坊  | 6「安全安心な地域」づくり  | CC   | 県土マネジメント部次長<br>(砂防・災害対策課長事務取扱) |
| テーマ  | (32) 土砂災害対策の推進 |  |                                |
| 戦略目標(KPI)  |                | 進捗状況及び取組・成果  |                                |
| 令和5年度までに土砂災害特別警戒区域内に立地する「24時間利用の要配慮者利用施設」や「代替性のない避難所」を保全する対策の着手数を30カ所にします。 |                | 保全する対策について、令和3年度までに29箇所を事業着手しています。<br>土砂災害特別警戒区域内にある全避難所について、代替性の有無に関するヒアリングを実施しました。避難所の移転に積極的でない市町村に対して、優良事例等を踏まえて移転指導を行いました。 |                                |

|  |  |   |
|--|--|---|
| KPI達成等に向けた課題                           | 課題の背景・要因                                   | 課題解決のための今後の取組方針   |
| 残り1箇所の確実な事業着手と、着手済箇所の早期完成に取り組むことが必要です。 | 事業を進めるにあたり、用地取得等地元との調整に時間を要することが課題となっています。 | 用地取得や地元調整を加速化するため、公図混乱や相続未登記箇所への法務局との対応協議を円滑に進めるなど用地事務の効率化を図り、用地の早期取得に努めます。 |
|  | 今年度の取組(~7月)                                |   |
|  | 残り1箇所の事業着手を行いました。                          | 事業着手に先立ち、あらかじめ地元との合意形成を図るなど、引き続き事業中の地元調整に要する期間の短縮を図っていきます。                  |

|                            |                        |   |                |
|----------------------------|------------------------|---|----------------|
| 坊                          | 6「安全安心な地域」づくり          | CC  | 知事公室<br>防災統括室長 |
| テーマ                        | (33) 日本一災害に強い奈良県を目指す対策 |   |                |
| 戦略目標(KPI)                  |                        | 進捗状況及び取組・成果   |                |
| 奈良県で災害が起きても犠牲者を出さないようにします。 |                        | 直近の自然災害の課題や社会情勢の変化等を踏まえ、令和4年2月に「奈良県地域防災計画」を見直しました。台風や集中豪雨等による浸水被害を軽減し、災害を防止するため、河川改修等を実施しました。加えて、住民の早期避難への活用や河川情報の充実を図るため、危機管理型水位計等の設置を行いました。<br>最小限度の人数による訓練の実施及び体制の整備等、コロナ禍においても可能な範囲で災害対応実践力の向上に向けて取組を進めてきました。 |                |

|  |   |   |
|--|---|---|
| KPI達成等に向けた課題                                 | 課題の要因・背景  | 課題解決のための今後の取組方針   |
| 奈良県においては、暫くの間大規模な災害が発生しておらず、迅速な災害対応に懸念があります。 | 近年、奈良県内で大きな被害が生じた災害が発生しておらず、庁内においては平成23年以降、災害対策本部の設置実績がありません。 | コロナ禍により実施できていなかった下記を目的とした訓練等について、実施に向け取り組んでいきます。<br>①県と関係団体との災害対応実践力の向上(奈良県防災総合訓練、奈良県国民保護共同図上訓練等)<br>②県の支援による市町村・地域の災害対応実践力の向上(災害時緊急連絡員の訓練等)<br>③県の危機管理担当課職員の災害対応実践力の向上(災害対策本部運営応用訓練等)<br>災害発生時から時間を追って段階的に必要となる災害対応の内容と役割を各部局が再認識し発災時に迅速に動けることを目的に、知事をトップとした全庁的・実践的な訓練を新たに実施します。 |
|  | 今年度の取組(~7月)   |   |
|  | 今年度の訓練実施に向け、検討・準備を行いました。                                      | 県ホームページ、県民だよりによる情報発信やパネル展、県政出前トークの開催等、県民の防災に対する意識向上と、災害時にとるべき避難行動の理解促進を目的とした周知・啓発を継続的に行います。   |

|  |                     |   |        |
|--|---------------------|---|--------|
| 坊                                      | 6「安全安心な地域」づくり       | CC  | 知事公室   |
| テーマ                                    | (34) 自然災害時の避難活動の円滑化 |   | 防災統括室長 |
| 戦略目標(KPI)                              |                     | 進捗状況及び取組・成果   |        |
| 避難体制について点検・見直しを行い、いざという時の避難行動に万全を期します。 |                     | 市町村職員向けに避難行動要支援者に対する個別避難計画の策定方法等を含む要配慮者対策に関する研修を実施しました。<br>市町村の避難所運営マニュアル策定等への支援や「女性視点の防災ハンドブック」「新型コロナウイルス感染症に備えた避難所運営に係るガイドライン」を作成し、配布する等、市町村等が行う避難対策に対する支援を行ってきました。 |        |

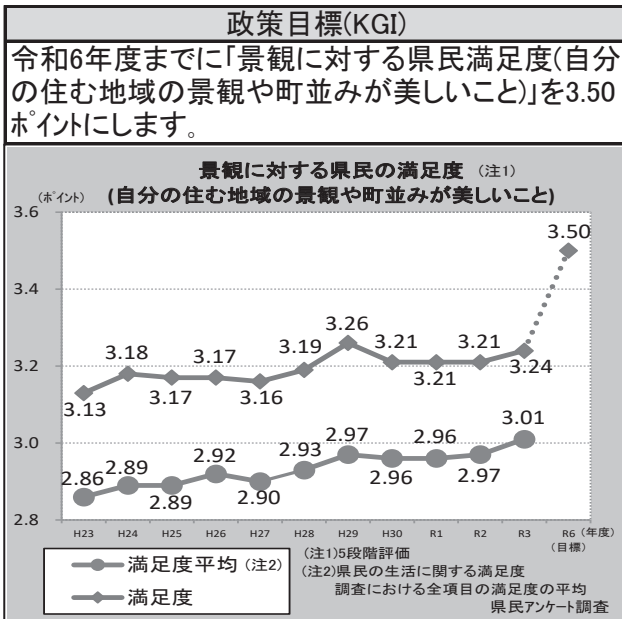
| KPI達成等に向けた課題   | 課題の要因・背景  | 課題解決のための今後の取組方針   |
|--|---|---|
| ①市町村における個別避難計画策定が進んでいません。<br>②発災時における災害ボランティアの確保が必要です。 | ①市町村職員の要配慮者対策に関する知識やノウハウが不足しています。<br>②コロナ禍では、感染防止の観点から県域を跨いだ災害ボランティアの支援が困難な状況です。  | ①市町村職員向け研修の実施と個別支援を行います。<br><br>②若い世代を中心に、県内での災害ボランティアの確保に向けて、入門講座の開催を継続します。県内の災害ボランティアセンターの設置運営を相互に支える仕組みを訓練などを通じて構築していきます。また、ICTを活用し、災害ボランティアセンターの災害対応力の強化を継続します。 |
|  | 今年度の取組(~7月)<br>②若い世代を中心に、ボランティアに対する意識調査及びボランティア入門講座を開催し、災害ボランティア確保に向けた取り組みを始めました。 |   |

Ⅲ 楽しむ「都」をつくる

|                |
|----------------|
| 坊              |
| 7 「きれいな奈良県」づくり |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 担当部局等                                |
| 水循環・森林・景観環境部、<br>県土マネジメント部、地域デザイン推進局 |

政策目標(KGI)達成に向けた進捗状況



| 基準値   | 実績値(a)        | 進捗状況   |          | 目標値 (達成率)           |                 |
|---|---------------|--------|----------|---------------------|-----------------|
|   |               | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |                     |                 |
| H23年度   | ↑             | R3年度   | R3年度     | R6年度                |                 |
| 3.13  | +0.11<br>ポイント | 3.24   | 3.41     | 94.9%<br>②(90~100%) | 3.50<br>(29.7%) |
| 指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)   |               |        |          |                     |                 |
| 令和3年度県民アンケートでは、景観に対する県民の満足度(自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと)が3.24ポイントとなり、平成23年度から0.11ポイント上昇しました。                               |               |        |          |                     |                 |
| 背景・要因等  |               |        |          |                     |                 |
| 馬見丘陵公園や水辺の彩りをはじめとした「なら四季彩の庭」づくりの推進や、道路の無電柱化の事業推進等による県内の景観の向上、及び、大和川やその支川の水質改善やごみの減量化・リサイクル等が進んだことによる環境改善が一因と考えられます。 |               |        |          |                     |                 |

関連する戦略目標(KPI)の進捗状況

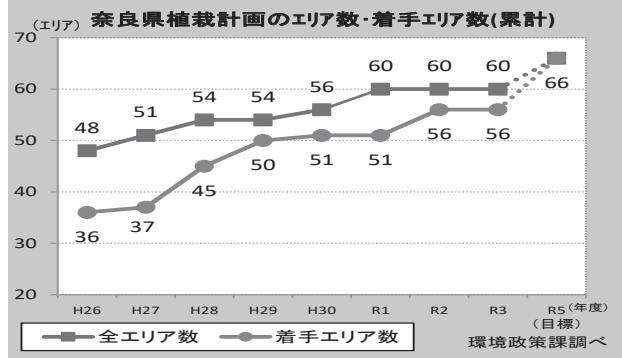
| テーマ<br>戦略目標(KPI)  | 基準値   | 実績値(a)       | 進捗状況   |          | 目標値 (達成率)  |                     |               |
|---|-------|--------------|--------|----------|------------|---------------------|---------------|
|   |       |              | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |            |                     |               |
| (35) なら四季彩の庭づくりの推進                                      | H26年度 | R3年度         | R3年度   |          | R5年度       |                     |               |
| 令和5年度までに奈良県植栽計画のエリア数を66エリアに増やし、全てのエリアにおいて事業に着手します。      | 計画    | 48           | ↑      | 60       | 62         | 96.8%<br>②(90~100%) | 66<br>(66.7%) |
|   | 着手    | 36           | ↑      | 56       | 59.3       | 94.4%<br>②(90~100%) | 66<br>(66.7%) |
| (36) 馬見丘陵公園を誇らしい花の公園に整備                                 | H26年度 | ↑            | R3年度   | R3年度     | 96.9%      | R6年度                |               |
| 令和6年度までに馬見丘陵公園来園者数を年間120万人にします。                         | 926   | +157<br>千人   | 1,083  | 1,117.8  | ②(90~100%) | 1,200<br>(57.3%)    |               |
| (37) 大和川とその支川のきれい化                                      | H26年度 | ↑            | R3年度   | R3年度     | 95.2%      | R3年度                |               |
| 令和3年度に大和川(支川含む)の水質BODにかかる環境基準達成率を100%にし、以降も100%を維持します。  | 85.7  | +9.5<br>ポイント | 95.2   | 100.0    | ②(90~100%) | 100<br>(66.4%)      |               |
| (38) きれいな川辺づくり、遊歩環境の改善                                  | H26年度 | ↓            | R3年度   | R3年度     | 90.2%      | R6年度                |               |
| 令和6年度までに地域の河川サポート事業参加団体を197団体にします。                      | 176   | ▲4<br>団体     | 172    | 190.7    | ②(90~100%) | 197<br>(基準値未滿)      |               |
| (39) 道路の無電柱化  | R1年度  | ↑            | R3年度   | R3年度     | 78.9%      | R7年度                |               |
| 「奈良県無電柱化推進計画」の対象道路(約19km)において、令和7年度までに電線共同溝整備率を35%にします。 | 11    | +4<br>ポイント   | 15     | 19       | ③90%未滿     | 35<br>(16.7%)       |               |
| (40) プラスチックごみの削減  | H26年度 | ↑            | R2年度   | R2年度     | 74.7%      | R4年度                |               |
| 令和4年度までに一般廃棄物のリサイクル率を23.0%にします。                         | 15.6  | +0.2<br>ポイント | 15.8   | 21.2     | ③90%未滿     | 23.0<br>(2.7%)      |               |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 坊   | 7「きれいな奈良県」づくり      |
| テーマ | (35) なら四季彩の庭づくりの推進 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| 水循環・森林・景観環境部    |
| 環境政策課長          |

**戦略目標(KPI)**  
令和5年度までに奈良県植栽計画のエリア数を66エリアに増やし、全てのエリアにおいて事業に着手します。



|    | 基準値         | 実績値(a)                | 進捗状況   |                     | 目標値(達成率)              |
|----|-------------|-----------------------|--------|---------------------|-----------------------|
|    |             |                       | 目安値(b) | 進捗率(a/b)            |                       |
| 計画 | H26年度<br>48 | R3年度<br>60<br>+12 エリア | 62     | 96.8%<br>②(90~100%) | R5年度<br>66<br>(66.7%) |
| 着手 | 36          | 56<br>+20 エリア         | 59.3   | 94.4%<br>②(90~100%) | 66<br>(66.7%)         |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)  
現エリア数60エリアのうち、56エリアにおいて着手し、着手エリア数の達成率は66.7%となりました。

**背景・要因等**  
直近では令和元年度に「なら歴史芸術文化村」等4エリアの新規追加、令和2年度に「高天交差点～鴻ノ池運動公園周辺エリア」等5エリアでの新規着手により、エリア数・着手エリア数が増加しました。

| KPI達成に向けた取組・成果 |  |
|----------------|--|
| 取組①            | 場所類型に沿った庭づくりを検討するため、場所類型別にモデルエリアを選定し、事業計画を策定・推進することにより、「なら四季彩の庭」づくりを推進しています。   |
| 成果①            | 「森林・山岳」「里山・田園」「歴史文化遺産」「水辺」「まち」「人の集う場所」の6つの場所類型毎に第1期モデルエリアを選定しました。  |
| 取組②            | 「なら四季彩の庭」づくりを全県的な運動として促進するため、県民・地元団体等に対し広く普及啓発・意識醸成を図っています。  |
| 成果②            | 協定締結団体である奈良県生活衛生同業組合8組合に対し、パンジー等の花苗約17,000株とともに、「なら四季彩の庭」ステッカーを約3,500枚配布しました。また、Instagramを立ち上げ、誰もが気軽に参加できる運動としての普及啓発を図っています。 |

| KPI関連指標             | 指標の動き |           |      |          |      |           | 指標の動きの要因 |   |
|---------------------|-------|-----------|------|----------|------|-----------|----------|---|
|                     | H30年度 | 変化        | R1年度 | 変化       | R2年度 | 変化        |          | R3年度                                    |
| 全処方数(注)<br>[累計](処方) | 366   | +29<br>処方 | 395  | +0<br>処方 | 395  | +2<br>処方  | 397      | 各エリアのエリアコンセプトに基づき庭づくりの対象箇所が増加したためです。    |
| 着手処方数[累計](処方)       | 254   | +22<br>処方 | 276  | +8<br>処方 | 284  | +13<br>処方 | 297      | 「なら四季彩の庭」づくり推進補助金の活用等による植栽関連事業の進捗によります。 |

(注)処方…各エリアの整備方針図に登録された事業

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

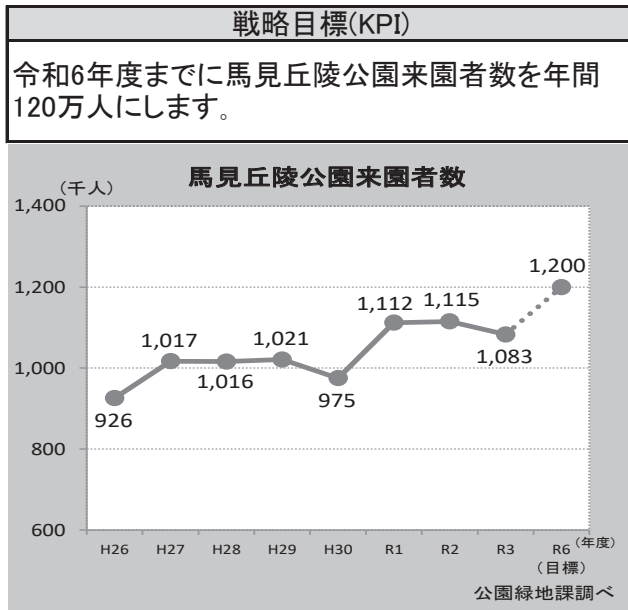
| KPI達成等に向けた課題   | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針   |
|--|--|---|
| 未着手処方の推進、及び、新規エリア・新規処方の追加など、県内の美しい景観を楽しめる箇所を増やしていくことが課題です。 | 未着手処方の約3分の2が県有地外である一方で、令和2年の県民を対象にしたアンケートでは約7割の方が「なら四季彩の庭」づくりを「知らない」と答えていることから、「なら四季彩の庭」づくりが県内に浸透していないことが要因の一つと考えられます。このことから、普及啓発による意識醸成や、市町村・地元団体・県民等との協働による取組を推進する必要があります。 | 市町村等に対する植栽整備補助金等により、引き続き協働による事業を推進するとともに、場所類型別モデルエリアの事業計画等を策定し、市町村・地元団体等と協働による事業を推進します。 |
|  | <b>今年度の取組(～7月)</b><br>植栽に取り組む県有施設への「なら四季彩の庭」ステッカーの掲出を進めました。市町村や県民等への技術支援を目的とし、アドバイザー派遣を実施しました。   | 令和3年度に引き続き、協定締結団体や地元活動団体等への花苗等による実践活動の促進とともに、「なら四季彩の庭」ステッカーの掲出による普及啓発を進めます。             |



各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                         |
|-----|-------------------------|
| 坊   | 7「きれいな奈良県」づくり           |
| テーマ | (36) 馬見丘陵公園を誇らしい花の公園に整備 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| 地域デザイン推進局       |
| 公園緑地課長          |



| 基準値   | 実績値(a)     | 進捗状況   |            | 目標値 (達成率)        |
|-------|------------|--------|------------|------------------|
|       |            | 目安値(b) | 進捗率(a/b)   |                  |
| H26年度 | R3年度       | R3年度   | 96.9%      | R6年度             |
| 926   | +157<br>千人 | 1,083  | ②(90~100%) | 1,200<br>(57.3%) |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

令和3年度の年間来園者数は108.3万人となり、平成26年度の92.6万人より15.7万人増加し、進捗率は96.9%と順調に進捗しています。

**背景・要因等**

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部のやまと花ごよみイベントを中止したため、令和3年度の来園者数は前年度より減少しましたが、季節ごとのイベント開催や、季節の花々の植栽により美しい景観パノラマを創出するなど、来園者のニーズに合わせて公園の魅力向上に資する取組を継続的に実施したことにより来園者数は増加傾向にあります。

| KPI達成に向けた取組・成果 |  |
|----------------|--|
| 取組①            | 令和3年度は、鉄道駅から公園までの緑道エリアに、距離標設置を検討するとともに、健康遊具を2箇所設置しました。 |
| 成果①            | 歩行空間を整備することで、近隣住民のウォーキング需要の喚起や鉄道を利用する来園者の増加につながりました。   |
| 取組②            | 園内移動支援施設として令和2年7月よりイベント開催日及び土日祝日に電動カートの運行を実施しています。     |
| 成果②            | 運行開始以来、累計で約5,000名の方々に電動カートをご利用いただいています。                |

| KPI関連指標              | 指標の動き |      |      |      | 指標の動きの要因 |      |      |                                 |
|----------------------|-------|------|------|------|----------|------|------|---------------------------------|
| チューリップを含む春の花々の株数(万株) | H30年度 | ↗    | R1年度 | ↗    | R2年度     | ↗    | R3年度 | 花壇を新設するなど魅力向上のため植栽を充実しました。      |
|                      | 50    | +4万株 | 54   | +5万株 | 59       | +6万株 | 65   |                                 |
| 花緑ボランティア登録者数[累計](人)  | H30年度 | ↗    | R1年度 | ↗    | R2年度     | ↗    | R3年度 | 継続的な広報による認知の定着のため、登録者数は逡増しています。 |
|                      | 40    | +7人  | 47   | +2人  | 49       | +4人  | 53   |                                 |

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

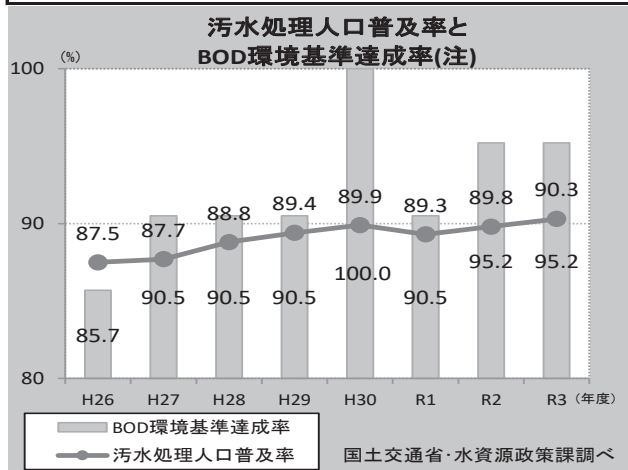
| KPI達成等に向けた課題                            | 課題の背景・要因                           | 課題解決のための今後の取組方針   |
|---|------------------------------------|---|
| 夏期及び冬期の来園者数が、春期及び秋期の来園者数に比較して少数となっています。 | 広大な公園を無理なく楽しめるための園内の休憩所の数が不足しています。 | ハナモモの丘、スキの丘の園路広場の整備を進めます。<br><br>引き続き、休憩所、花壇施設の計画検討を進めます。 |
|   | 今年度の取組(~7月)                        |   |
|   | ハナモモの丘の休憩所整備に向けた検討を進めています。         |   |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 坊   | 7「きれいな奈良県」づくり      |
| テーマ | (37) 大和川とその支川のきれい化 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| 県土マネジメント部       |
| 河川整備課長          |

| 戦略目標(KPI)  |
|--|
| 令和3年度に大和川(支川含む)の水質BODにかかる環境基準達成率を100%にし、以降も100%を維持します。 |



| 基準値   | 実績値(a)           | 進捗状況   |            | 目標値(達成率)   |
|-------|------------------|--------|------------|------------|
|       |                  | 目安値(b) | 進捗率(a/b)   |            |
| H26年度 | R3年度             | R3年度   | 95.2%      | R3年度       |
| 85.7  | +9.5ポイント<br>95.2 | 100.0  | ②(90~100%) | 100(66.4%) |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

大和川(支川含む)の水質BODに係る環境基準達成率は、令和元年度は90.5%でしたが、令和3年度は95.2%になり、進捗率は95.2%になりました。

背景・要因等

大和川(支川含む)の水質BODに係る環境基準達成率は汚水処理施設整備の促進、大和川の水質の見える化等による県民意識の醸成が進んだことなどにより、改善しています。令和3年度の環境基準達成地点数は令和2年度に引き続き20となっています。

(注)環境基準達成率 = 環境基準達成地点数 / 大和川環境基準点21地点

| KPI達成に向けた取組・成果 |  |  |
|----------------|--|--|
| 取組             | 生活排水対策の一環として、浄化槽設置整備を推進するため、「浄化槽を設置する住民に助成を行っている市町村」に対し、補助金を交付しています。 | 成果   |
|                |  | 下水道への接続と併せて、下水道エリア外における浄化槽の設置整備が進むことで、県全体の汚水処理人口普及率が上昇しています。 |

| KPI関連指標       | 指標の動き   |         |         |        | 指標の動きの要因                                 |
|---------------|---------|---------|---------|--------|--|
|               | H29年度   | H30年度   | R1年度    | R2年度   |  |
| 単独浄化槽設置基数※(基) | 70,391  | 68,744  | 67,149  | 65,752 | 下水道接続や合併浄化槽への転換が進むことで単独浄化槽の設置基数は減少しています。 |
|               | ▲1,647基 | ▲1,595基 | ▲1,397基 |        |  |

※は数値が低い方が良くなる指標です。

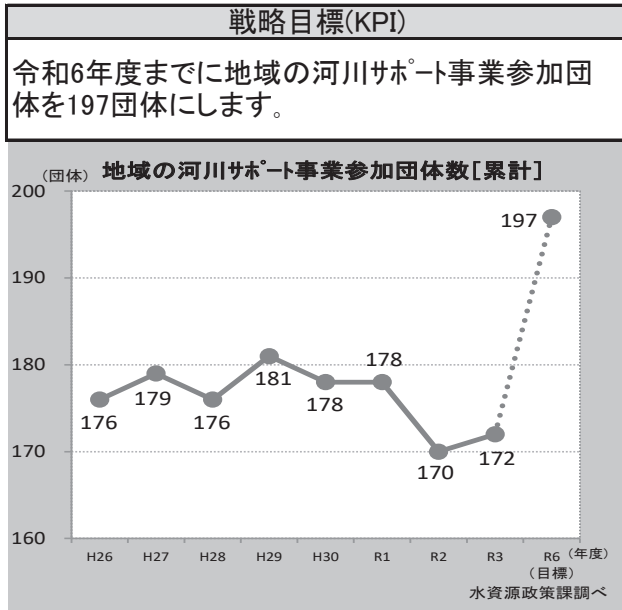
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

| KPI達成等に向けた課題                 | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針   |
|------------------------------|--|---|
| 水質の改善が進んでいない支川(重点対策支川)があります。 | 浄化槽の法定検査の未受検など維持管理が徹底されていないことや単独浄化槽から合併浄化槽への転換が進んでいないこと等が考えられます。 | 重点対策支川流域市町村と県の連携により、浄化槽を使用している世帯を戸別訪問し、浄化槽の適正管理に係る啓発を集中的に行います。<br><br>下水道エリア外において、汲み取り及び単独浄化槽使用の場合は、合併浄化槽への転換を促します。 |
|                              | 今年度の取組(~7月)  |   |
|                              | 効果的に戸別訪問を実施するため、市町村と連携・協働し、訪問対象となる地域や世帯の絞込みを進めました。               |   |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                        |
|-----|------------------------|
| 坊   | 7「きれいな奈良県」づくり          |
| テーマ | (38) きれいな川辺づくり、遊歩環境の改善 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| 県土マネジメント部       |
| 河川整備課長          |



| 基準値  | 実績値(a)          | 進捗状況   |            | 目標値<br>(達成率)   |
|--|-----------------|--------|------------|----------------|
|  |                 | 目安値(b) | 進捗率(a/b)   |                |
| H26年度  | R3年度            | R3年度   | 90.2%      | R6年度           |
| 176  | ▲4<br>団体<br>172 | 190.7  | ②(90~100%) | 197<br>(基準値未滿) |
| 指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)  |                 |        |            |                |
| 地域の河川サポート事業の参加団体数は令和2年度に減少しましたが、令和3年度は172団体に増加しました。                                |                 |        |            |                |
| 背景・要因等   |                 |        |            |                |
| ホームページの掲載やチラシ配布などの効果により、新規の加入団体があったため件数は増加しましたが、高齢化等により活動を止める団体もあり、若干の増加にとどまっています。 |                 |        |            |                |

| KPI達成に向けた取組・成果 |   |   |
|----------------|---|---|
| 取組             | 河川美化を中心とした団体だけでなく、環境保全や景観づくりの活動を行っている団体(「きれいに暮らす奈良県スタイル」実践団体等)への訪問等により参加を促しました。 | 成果<br>「きれいに暮らす奈良県スタイル」実践団体は当初の46団体から54団体に増加していますが、河川サポート事業の参加には至っていません。 |

| KPI関連指標                  | 指標の動き |          |      |           |      |           | 指標の動きの要因 |   |
|--------------------------|-------|----------|------|-----------|------|-----------|----------|---|
|                          | H30年度 | →        | R1年度 | ↗         | R2年度 | →         |          | R3年度                                    |
| 植栽エリア着手エリア数<br>[累計](エリア) | 51    | 0<br>エリア | 51   | +5<br>エリア | 56   | +0<br>エリア | 56       | 奈良県植栽計画による取組を、「なら四季彩の庭」作庭方針に基づき推進しています。 |

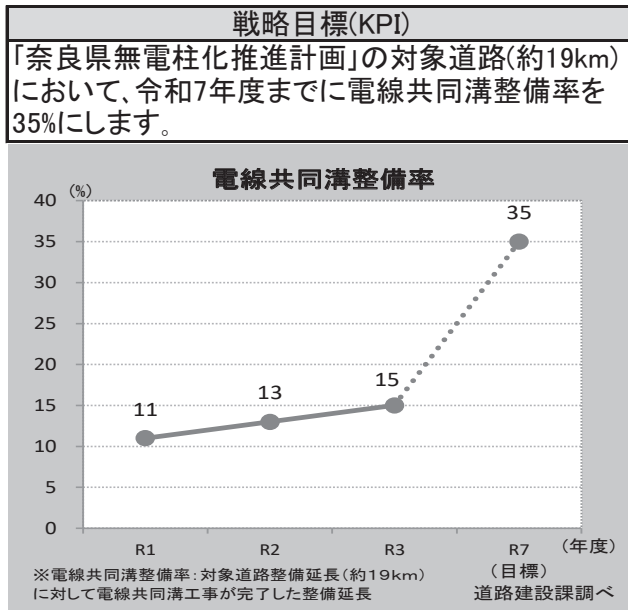
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

| KPI達成等に向けた課題                    | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針  |
|---------------------------------|--|--|
| 既存の参加団体が減少しており、新たな団体の加入促進が課題です。 | 高齢化等により参加団体が活動を止める中、既存の参加団体が減少しています。               | ホームページ掲載やチラシ配布やなどの周知を継続するとともに、イベントやパネル展等を行い、啓発活動を強化します。<br><br>引き続き、美化活動団体の掘り起こしを行い、それらの団体(「きれいに暮らす奈良県スタイル」実践団体等)に直接働きかけを行います。 |
|                                 | 今年度の取組(~7月)  |  |
|                                 | 庁内・市町村・関係団体などから情報提供をいただき、同様の美化活動を行っている団体の把握を行いました。 |  |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |               |
|-----|---------------|
| 坊   | 7「きれいな奈良県」づくり |
| テーマ | (39) 道路の無電柱化  |

|                                    |
|------------------------------------|
| CC(チーフコーディネーター)                    |
| 県土マネジメント部<br>道路政策官<br>(道路建設課長事務取扱) |



| 基準値  | 実績値(a) | 進捗状況   |          | 目標値(達成率)   |
|------|--------|--------|----------|------------|
|      |        | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |            |
| R1年度 | R3年度   | R3年度   | 78.9%    | R7年度       |
| 11   |        | 19     | ③90%未満   | 35 (16.7%) |

↑ +4ポイント

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

対象道路の約19kmにおいて、約2.9kmで工事完了し、電線共同溝整備率15%となりました。

**背景・要因等**

電線共同溝工事は、令和3年度、(都)畝傍駅前通り線(橿原市)においては、約0.8kmのうち約0.3kmの工事が完了し、国道168号(王寺町)では、残りの約0.2kmの工事を実施し、全区間約1.8kmの工事が完了しました。

| KPI達成に向けた取組・成果 |                                       |   |
|----------------|---------------------------------------|---|
| 取組             | 残りの対象道路についても、工事完了に向けて電線共同溝工事を実施しています。 | 成果<br>令和3年度は、(都)奈良橿原線(奈良市)、国道168号(香芝市)、県道三輪山線(桜井市)、(都)畝傍駅前通り線(橿原市)にて電線共同溝工事を実施しました(整備延長約3.4km)。 |

| KPI関連指標                                    | 指標の動き |      |      |      | 指標の動きの要因                                       |
|--|-------|------|------|------|--|
| まちづくり基本計画に県管理道路の無電柱化事業が位置づけられている地区[累計](地区) | H30年度 | ↗    | R1年度 | →    | 平成29年4月に大神神社参道周辺地区、令和元年7月に近鉄郡山駅周辺地区について策定しました。 |
|  | 1     | +1地区 | 2    | +0地区 |  |
|  |       |      | R2年度 | →    |  |
|  |       |      | 2    | +0地区 |  |
|  |       |      | R3年度 |      |  |
|  |       |      | 2    |      |  |

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

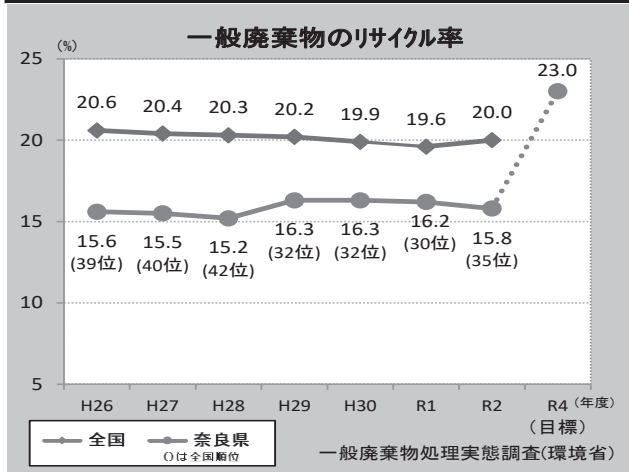
| KPI達成等に向けた課題                                     | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針   |
|--|--|---|
| 計画的に電線共同溝整備の進捗を図るためには、事業者との速やかな調整と確実な予算の確保が必要です。 | 複数の電線事業者との調整には時間を要します。<br>電線共同溝工事の実施に多くの費用が発生します。            | 各工事の年次計画の精査を図りながら、予算の確保に向けて国に働きかけます。<br>交付金から個別補助事業に見直すなど、より確実に予算確保ができるよう取り組みます。<br>既存ストックの活用を検討し、コスト縮減を図ります。 |
|  | <b>今年度の取組(~7月)</b><br>電線事業者等とコスト縮減につながる新たな事業手法等について調整を行いました。 |   |
|  |  | 定期的に電線事業者との調整の場を設けるなど、事業実施に向けた計画的な取組を行います。  |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                  |
|-----|------------------|
| 坊   | 7「きれいな奈良県」づくり    |
| テーマ | (40) プラスチックごみの削減 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| 水循環・森林・景観環境部    |
| 廃棄物対策課長         |

| 戦略目標(KPI)                       |
|---------------------------------|
| 令和4年度までに一般廃棄物のリサイクル率を23.0%にします。 |



| 基準値   | 実績値(a) | 進捗状況   |          | 目標値(達成率)    |
|-------|--------|--------|----------|-------------|
|       |        | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |             |
| H26年度 | R2年度   | R2年度   | 74.7%    | R4年度        |
| 15.6  | 15.8   | 21.2   | ③90%未満   | 23.0 (2.7%) |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)  
 一般廃棄物のリサイクル率は、基準値である平成26年度の15.6%から0.2ポイント上昇し、令和2年度は15.8%となりました。全国順位は、平成26年度の39位から令和2年度は35位となりました。進捗率は74.7%となっています。

背景・要因等  
 環境イベント等での買い物袋の持参等の啓発や、市町村間で好事例を共有するワークショップの開催等により、ごみの減量化やリサイクル促進の取組を進めています。しかし、紙ごみ、ペットボトルのリサイクルは既に高水準で行われており、近年は全国的にリサイクル率が伸び悩んでいます。

| KPI達成に向けた取組・成果 |   |  |
|----------------|---|--|
| 取組             | プラスチックごみの問題について県民の方々に広く知っていただくため、プラスチックごみ削減アイデアの募集や県内ショッピングモールで啓発イベントを実施しました。 | 成果<br>イベントを通して買い物袋の持参や過剰包装の自粛、容器のリユースなどの情報発信を行うことで、プラスチックごみの問題について県民の関心を高めることができました。 |

| KPI関連指標                | 指標の動き       |            |            |            | 指標の動きの要因                                 |  |
|------------------------|-------------|------------|------------|------------|--|--|
| ごみ減量化等啓発行事の実施市町村数(市町村) | H30年度<br>23 | R1年度<br>22 | R2年度<br>23 | R3年度<br>18 | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業実施を見送る市町村が多い現状です。 |  |
| 不法投棄等に係る通報件数※(件)       | H30年度<br>61 | R1年度<br>78 | R2年度<br>88 | R3年度<br>71 | 不法投棄防止のための看板や監視カメラの設置等の効果により、件数が減少しました。  |  |

※は数値が低い方が良くなる指標です。

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

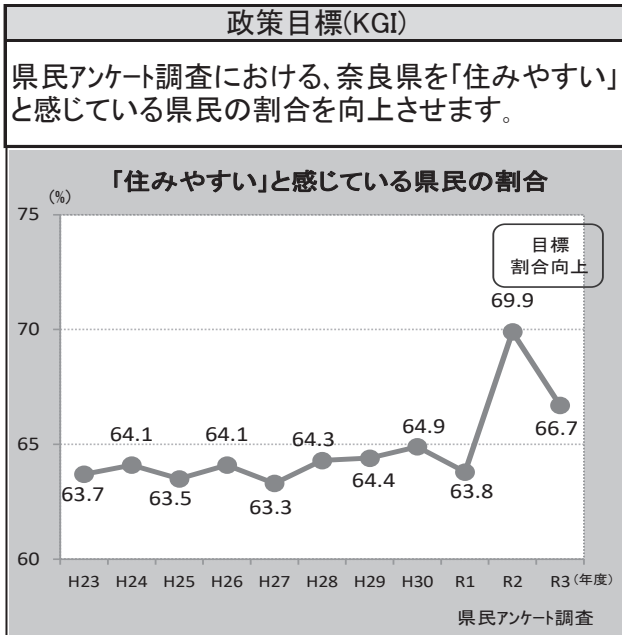
| KPI達成等に向けた課題            | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針   |
|-------------------------|--|---|
| リサイクル率が全国比較で低位に位置しています。 | 資源ゴミのうちペットボトルのリサイクル率は高水準で推移している一方、それ以外の容器包装等の分別回収が進んでいないことが要因の一つと考えられます。 | 第5次廃棄物処理計画(令和5～9年度)の策定に向け、令和4年4月に施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」を踏まえたリサイクル率向上の先進的な取組を検討するとともに、奈良モデル研修会を開催することで県と市町村が好事例や課題等を共有し、取組を進めます。 |
|                         | 今年度の取組(~7月)<br>令和4年5月にショッピングモールで啓発イベントを開催しました。                           | 一般廃棄物の減量化・再生利用の推進を図るため、啓発イベントの開催に加えて、新たにプラスチックごみ削減動画コンテンツを開催し、リサイクルに対する更なる意識の向上を目指します。  |

Ⅲ 愉しむ「都」をつくる

|               |
|---------------|
| 坊             |
| 8 くらしやすいまちづくり |

|                          |
|--------------------------|
| 担当部局等                    |
| 知事公室、<br>地域デザイン推進局、政策統括官 |

政策目標(KGI)達成に向けた進捗状況



| 基準値   | 実績値(a)                       | 進捗状況   |          | 目標値<br>(達成率) |
|---|------------------------------|--------|----------|--------------|
|   |                              | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |              |
| H23年度<br>63.7   | R3年度<br>66.7<br>+3.0<br>ポイント | /      |          | 割合<br>向上     |
|   |                              |        |          |              |
| 指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)   |                              |        |          |              |
| 奈良県を「住みやすい」と感じている県民の割合は概ね増加傾向にあり、令和3年度は前年度よりは減少したものの、平成23年度と比較すると3ポイント上昇し、66.7%となっています。 |                              |        |          |              |
| 背景・要因等  |                              |        |          |              |
| 居住地域別で見ると、西部では71.3%、中部では71.2%(いずれも平成23年度から6ポイント以上の増)が「住みやすい」と回答し、これが全体の数値を押し上げました。      |                              |        |          |              |

関連する戦略目標(KPI)の進捗状況

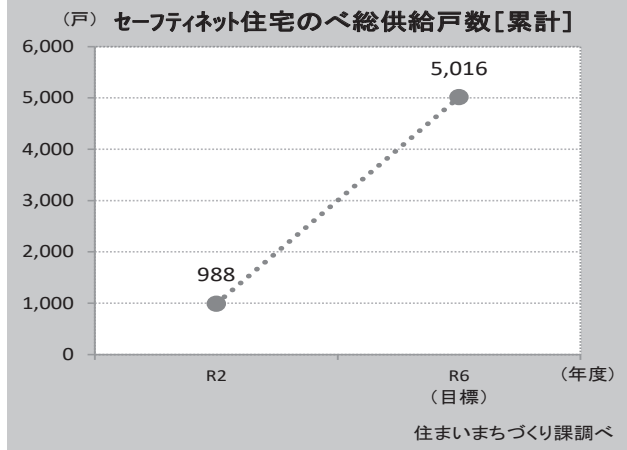
| テーマ  | 基準値   | 実績値(a)                       | 進捗状況         |          | 目標値<br>(達成率)             |
|--|---|------------------------------|--------------|----------|--------------------------|
| 戦略目標(KPI)  |   |                              | 目安値(b)       | 進捗率(a/b) |                          |
| (41) 土地利用とまちづくり<br>都市・農村・森林が共生できる「新たな土地利用の仕組み」を構築します。                | 都市計画、農地、森林等の各分野の有識者で構成する「奈良県土地利用に関する懇談会」を開催しました。「地域フォーラム」において「奈良のまちづくりと土地利用のあり方」をテーマに議論しました。  |                              |              |          |                          |
| (42) 奈良県のすまい方改善<br>令和6年度までにセーフティネット住宅の県内ののべ総供給戸数を約5,000戸以上にします。      | R2年度<br>988   | →<br>+0<br>戸<br>R2年度<br>988  | /            |          | R6年度<br>5,016<br>(19.7%) |
| (43) 県内の交通サービスの確保と利便向上<br>域内での移動が便利になるように、市町村と協働して移動手段の確保について検討します。  | 公共交通施策の基本的な方針や、具体的に講ずべき施策について定める、「奈良県公共交通基本計画」を改定しました。<br>移動コースに応じた交通サービス確保のため、広域の路線バス・コミュニティバスの運行を支援しました。<br>奈良交通との連携協定に基づき、上屋整備やノンステップ車両導入等に対し、支援しました。<br>市町村等が行う地域公共交通計画の策定、利用環境整備を支援しました。 |                              |              |          |                          |
| (44) 自治会等との連携協力強化<br>令和6年度までに県内で地域自治協議会(まちづくり協議会)が60以上結成できるように応援します。 | R1年度<br>39  | ↗<br>+3<br>協議会<br>R3年度<br>42 | R3年度<br>47.4 | 88.6%    | R6年度<br>60<br>(14.3%)    |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                 |
|-----|-----------------|
| 坊   | 8 暮らしやすいまちづくり   |
| テーマ | (42) 奈良県のすまい方改善 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| 地域デザイン推進局       |
| 住まいまちづくり課長      |

| 戦略目標(KPI)                                    |
|--|
| 令和6年度までにセーフティネット住宅の県内ののべ総供給戸数を約5,000戸以上にします。 |



| 基準値  | 実績値(a) | 進捗状況   |          | 目標値(達成率)       |
|------|--------|--------|----------|----------------|
|      |        | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |                |
| R2年度 | → R2年度 |        |          | R6年度           |
| 988  | +0戸    | 988    |          | 5,016 (19.7%)★ |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

セーフティネット住宅(県営住宅等及び住宅確保要配慮者円滑入居賃貸住宅)について、令和2年度に988戸の供給を確保しました。

背景・要因等

桜井県営住宅第1期建替工事(89戸)が令和3年2月に完成しました。また、県営住宅等の既存空家を修繕して入居者の募集や民間住宅事業者等に住宅確保要配慮者円滑入居賃貸住宅の登録を促すための周知を行いました。

★目標値に対する実績値の割合を記載しています。

KPI達成に向けた取組・成果

| 取組 | 取組内容   | 成果  | 成果内容   |
|----|--|-----|--|
| ①  | 既存の県営住宅の長寿命化を図るため、外壁や屋上防水などの大規模改修を進め、既存ストックの有効活用に取り組んでいます。 | 成果① | 令和2年度に橿原及び坊城、令和3年度に西小泉の県営住宅において計15棟の大規模改修が完了するなど、建物の老朽化を防止して居住環境の向上を図ることにより、県営住宅への入居の応募がしやすい環境づくりを行いました。 |
| ②  | 住宅確保用配慮者も利用可能な都市再生機構賃貸住宅の有効活用のため、都市再生機構との連携や情報共有に取り組んでいます。 | 成果② | 令和2年度は、県営住宅及び市町村営住宅が計492戸募集したことに加えて、居住の安定の確保を図るべき世帯に対応する都市再生機構賃貸住宅が362戸の募集を実施しました。                       |

| KPI関連指標        | 指標の動き |      |      | 指標の動きの要因                                |
|----------------|-------|------|------|---|
| 建替整備戸数[累計](戸数) | R2年度  | →    | R3年度 | 桜井県営住宅の建替整備(近鉄大福駅周辺地区まちづくり)が順調に推移しています。 |
|                | 89    | +0戸数 | 89   |   |

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

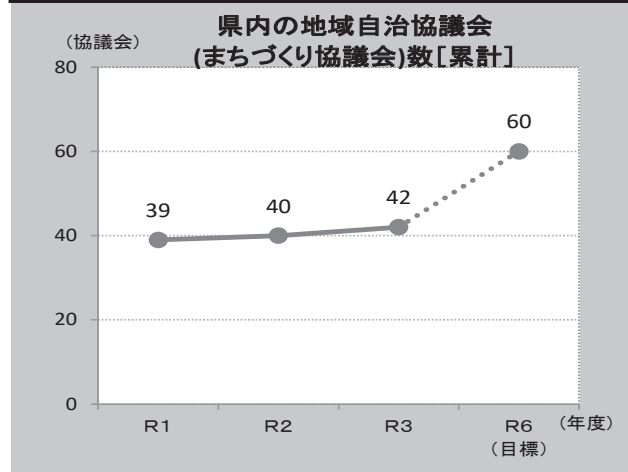
| KPI達成等に向けた課題  | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針   |
|---|--|---|
| 住宅確保要配慮者がより応募しやすい環境を構築するため、県営住宅の建替や、大規模改修や空き家修繕の実施を適切に進めることが必要です。 | 県営住宅の老朽化が進んでおり、緊急的な対応による改修を実施することが多くなっているため、より計画的に居住環境の向上を図るための建替や改修を進めていく必要性が高まっています。 | 桜井団地の建替事業を継続して進めていくとともに、他の老朽化した県営住宅の建替や集約移転について早期に実施していくための方針を検討します。                        |
|   | 今年度の取組(~7月)  | 令和4年度改定(予定)の奈良県住生活ビジョンにおいて住まいを必要とする人を支えることを方針とし、県営住宅の長寿命化と居住環境向上を図るため、県営住宅の大規模改修を計画的に実施します。 |

## 各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                   |
|-----|-------------------|
| 坊   | 8くらしやすいまちづくり      |
| テーマ | (44) 自治会等との連携協力強化 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| 知事公室            |
| 政策推進課参事         |

| 戦略目標(KPI)                                       |
|---|
| 令和6年度までに県内で地域自治協議会(まちづくり協議会)が60以上結成できるように応援します。 |



| 基準値  | 実績値(a)          | 進捗状況   |          | 目標値(達成率)      |
|------|-----------------|--------|----------|---------------|
|      |                 | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |               |
| R1年度 | 42<br>+3<br>協議会 | R3年度   | 88.6%    | R6年度          |
| 39   |                 | 47.4   | ③90%未満   | 60<br>(14.3%) |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

県内の地域自治協議会等は、令和3年度は奈良市で前年度から新たに2団体が設立され、計42団体に増えましたが(宇陀市22団体、奈良市14団体、吉野町4団体、生駒市2団体)、目安値を5~6団体下回っています。

背景・要因等

奈良市においては、市自治連合会が中心となって地域自治協議会の設立促進を進められていますが、令和2年度以降のコロナ禍により自治会活動等も大きく制約を受けたため、地域自治協議会設立に向けた取組も困難な状況でした。

### KPI達成に向けた取組・成果

| 取組  | 内容   | 成果   |
|-----|--|--|
| 取組① | 自治会が本来の役割・機能を果たせるよう、自治会連携担当職の設置、県自治連合会への支援と加盟促進、自治会役員からの意見収集の実施、進んだ取組事例や県政の情報提供等により、県と自治会との連携協調の取組について充実を図っています。 | 成果① 県自治連合会の加盟市町村の増加、研修の充実が図られたほか、自治会役員から意見収集を行い、自治会の抱える課題や県への提案等を収集できました。          |
| 取組② | 自治会の活性化を促すため、「奈良県自治会ジャーナル」の発行など、自治会活動に役立つ情報の集積・共有化を図っています。   | 成果② 自治会ジャーナルの発行、その他県政情報の提供等により、自治会活動の担い手に対して、自治会活動に役立つ情報の共有ができ、自治会活動の意欲向上にも役立ちました。 |

| KPI関連指標                | 指標の動き |          |      |          | 指標の動きの要因 |          |  |
|------------------------|-------|----------|------|----------|----------|----------|--|
| 奈良県自治連合会加盟市町村数[累計](団体) | H30年度 | ↗        | R1年度 | ↗        | R2年度     | ↗        | 県及び県自治連合会が未加盟市町村に対し加盟を働きかけた結果、県内での連携や情報共有の重要性を理解されました。 |
|                        | 17    | +1<br>団体 | 18   | +1<br>団体 | 19       | +1<br>団体 |  |

### 進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

| KPI達成等に向けた課題   | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針   |
|--|--|---|
| 担い手の減少や高齢化、加入率の低下等により、自治会活動が縮小しているほか、地域課題を解決するために地域で活動する多様な団体が連携することの必要性についての情報が不足しています。 | 地域の人口減、高齢化、高齢者の現役化、単身世帯の増加、共助意識の減衰、地域活動団体同士の連携情報や連携意欲が不足しています。 | 地域自治協議会など、地域で活動する団体の協働組織形成の促進に繋がるよう、連携の重要性や協議会の優良事例について、積極的に情報提供を行います。<br><br>今年度から、市町村の担当職員、有識者や自治会役員も参加する「自治会・地域コミュニティ研究会」を実施し、地域の多様な団体と自治会との連携による地域活性化など、新たな地域課題に対応するための方策について、県・市町村や自治会等が共に検討します。 |
|  | 今年度の取組(~7月)  |   |



数値目標が設定されていないテーマ等の進捗状況、課題の明確化、今後の取組方針

|                                    |                 |  |                       |
|------------------------------------|-----------------|--|-----------------------|
| 坊                                  | 8 暮らしやすいまちづくり   | CC   | 地域デザイン推進局<br>県土利用政策室長 |
| テーマ                                | (41) 土地利用とまちづくり |  |                       |
| 戦略目標(KPI)                          |                 | 進捗状況及び取組・成果  |                       |
| 都市・農村・森林が共生できる「新たな土地利用の仕組み」を構築します。 |                 | 都市計画、農地、森林等の各分野の有識者で構成する「奈良県土地利用に関する懇談会」を開催しました。「地域フォーラム」において「奈良のまちづくりと土地利用のあり方」をテーマに議論しました。 |                       |

| KPI達成等に向けた課題                   | 課題の背景・要因  | 課題解決のための今後の取組方針   |
|--------------------------------|---|---|
| 「新たな土地利用の仕組み」の実効性を確保する必要があります。 | 県や市町村だけでなく、地域住民、地権者等を含めた関係者に、土地の利用・管理に関する認識を共有できておらず、継続的に取り組むことが困難となっています。    | <p>県民共通の規範である「基本理念」や、土地利用・管理に係る「関係者の責務」を明確化し、ボトムアップのまちづくりを推進するために、条例を制定します。</p> <p>条例に基づく取組を明確化する実施方針を策定し、これに基づき土地の利用・管理に関する各種施策を推進します。</p> |
|                                | <p>今年度の取組(~7月)</p> <p>「新たな土地利用の仕組み」の実効性を確保するための条例や実施方針の策定に向けた検討・調整を行いました。</p> |   |

|   |                        |   |                             |
|---|------------------------|---|-----------------------------|
| 坊   | 8 暮らしやすいまちづくり          | CC  | 県土マネジメント部<br>リニア推進・地域交通対策課長 |
| テーマ                                       | (43) 県内の交通サービスの確保と利便向上 |   |                             |
| 戦略目標(KPI)                                 |                        | 進捗状況及び取組・成果   |                             |
| 域内での移動が便利になるように、市町村と協働して移動手段の確保について検討します。 |                        | 公共交通施策の基本的な方針や、具体的に講ずべき施策について定める、「奈良県公共交通基本計画」を改定しました。<br>移動ニーズに応じた交通サービス確保のため、広域の路線バス・コミュニティバスの運行を支援しました。<br>奈良交通との連携協定に基づき、上屋整備やノンステップ車両導入等に対し、支援しました。<br>市町村等が行う地域公共交通計画の策定、利用環境整備を支援しました。 |                             |

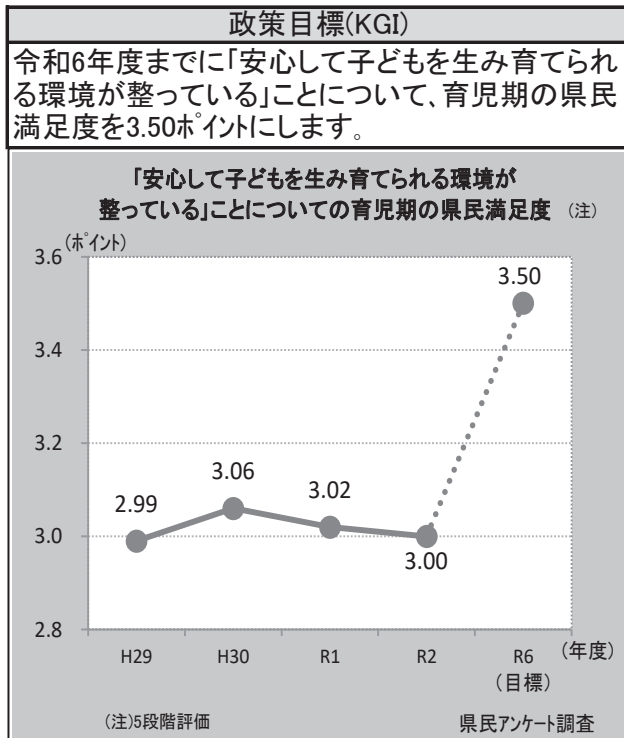
| KPI達成等に向けた課題                     | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針  |
|----------------------------------|--|--|
| 多様なニーズに対応するため、県内公共交通の維持・充実が必要です。 | 人口減少や少子高齢化の進行の他、就業の態様を含む県民のライフスタイルが変化してきています。  | <p>地域がより主体的に、公共交通の課題分析、改善策検討、運営形態の見直し、利用促進策の実施等に参画する取組を推進するとともに、南部東部を中心とする広域路線バス等に対し引き続き補助します。<br/>原油価格高騰による負担軽減を図るため、公共交通事業者に対し補助します。</p> <p>地域住民や観光客等の移動ニーズにきめ細かく対応する交通サービスの提供に向けた取組や、オンデマンド交通や自動運転等、デジタル技術を活用した新しい公共交通サービスの導入・展開を支援します。</p> |
|                                  | <p>今年度の取組(~7月)</p> <p>令和4年6~7月にかけて、多様な関係者が、地域の輸送資源を総合的に捉え、公共交通全体の維持・充実について協議する、「地域交通改善協議会エリア公共交通検討会議」を立ち上げました。</p> |  |

Ⅲ 愉しむ「都」をつくる

|                  |
|------------------|
| 坊                |
| 9 地域で子どもを健やかに育てる |

|               |
|---------------|
| 担当部局等         |
| こども・女性局、教育委員会 |

政策目標(KGI)達成に向けた進捗状況



| 基準値  | 実績値(a)                        | 進捗状況   |            | 目標値<br>(達成率)   |
|--|-------------------------------|--------|------------|----------------|
|  |                               | 目安値(b) | 進捗率(a/b)   |                |
| H29年度  | R2年度<br>3.00<br>+0.01<br>ポイント | R2年度   | 93.5%      | R6年度           |
| 2.99   |                               | 3.21   | ②(90~100%) | 3.50<br>(2.0%) |
| 指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)  |                               |        |            |                |
| 「安心して子どもを産み育てられる環境が整っている」ことについて、育児期の県民満足度は3ポイント程度で推移しています。令和2年度は3.00ポイントで、令和元年度の実績値から0.02ポイント減少しました。基準値から0.01ポイント増加したものの、伸び悩みの傾向にあります。                                     |                               |        |            |                |
| 背景・要因等   |                               |        |            |                |
| 令和2年度において、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う休園・休校に伴い、各家庭における子育ての不安感・負担感が増大したことが伸び悩みの要因の一つとして考えられます。<br>なお、令和4年3月に「奈良っ子はぐみ条例」を制定しました。これに基づき、安心して子どもをはぐむことができるよう、社会全体で子育て家庭を支援する取組を推進していきます。 |                               |        |            |                |

関連する戦略目標(KPI)の進捗状況

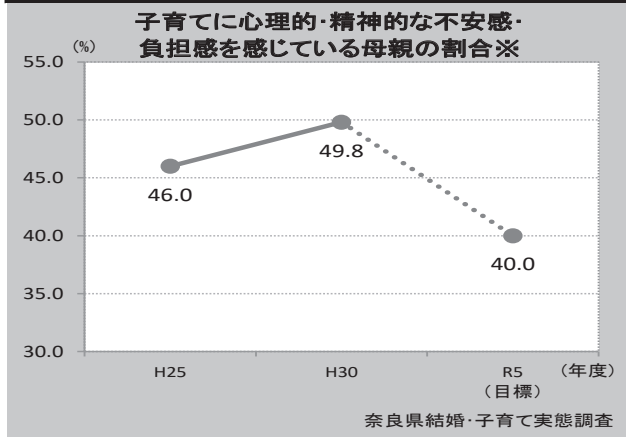
| テーマ<br>戦略目標(KPI)   | 基準値           | 実績値(a)                        | 進捗状況   |          | 目標値<br>(達成率)    |
|--|---------------|-------------------------------|--------|----------|-----------------|
|  |               |                               | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |                 |
| (45) 子育て不安の解消、出生率向上<br>令和5年度までに子育てに心理的・精神的な不安感・負担感を感じている母親の割合を40.0%以下にします。 | H25年度<br>46.0 | H30年度<br>49.8<br>+3.8<br>ポイント | H30年度  | 86.3%    | R5年度            |
|  |               |                               | 43.0   | ③90%未満   | 40.0<br>(基準値未満) |
| (46) 保育の量の確保と質の向上<br>令和6年度末までに保育所等入所待機児童を0にします。                            | H27年度<br>253  | R4年度<br>81<br>▲172<br>人       | R4年度   | 69.4%    | R6年度            |
|  |               |                               | 56.2   | ③90%未満   | 0<br>(68.0%)    |
| (47) 子どもの居場所づくりと里親制度の普及<br>令和7年度までに県内全ての小学校区に「こども食堂」の設置を目指します。             | H25年度<br>8.5  | R3年度<br>34.6<br>+26.1<br>ポイント | R3年度   | 58.3%    | R7年度            |
|  |               |                               | 59.3   | ③90%未満   | 100<br>(28.5%)  |
| (48) 児童虐待防止<br>令和4年度までに児童福祉司1人当たりの児童虐待相談対応件数を40件以下にします。                    | H27年度<br>70.7 | R2年度<br>53.4<br>▲17.3<br>件    | R2年度   | 109.5%   | R4年度            |
|  |               |                               | 48.8   | ①100%以上  | 40<br>(56.4%)   |
| (49) 子どもの通学通園路の安全確保<br>令和3年までに「地域の連携の場」をすべての市町村で構築します。                     | H30年<br>9     | R3年<br>39<br>+30<br>市町村       | R3年    | 100.0%   | R3年             |
|  |               |                               | 39     | ①100%以上  | 39<br>(100.0%)  |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                     |
|-----|---------------------|
| 坊   | 9 地域で子どもを健やかに育てる    |
| テーマ | (45) 子育て不安の解消、出生率向上 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| こども・女性局         |
| 女性活躍推進課長        |

**戦略目標(KPI)**  
令和5年度までに子育てに心理的・精神的な不安感・負担感を感じている母親の割合を40.0%以下にします。



| 基準値   | 実績値(a)          | 進捗状況   |          | 目標値(達成率)     |
|-------|-----------------|--------|----------|--------------|
|       |                 | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |              |
| H25年度 | H30年度           | H30年度  | 86.3%    | R5年度         |
| 46.0  | 49.8 (+3.8ポイント) | 43.0   | ③90%未満   | 40.0 (基準値未満) |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

子育てに心理的・精神的な不安・負担を感じている母親の割合は、平成30年度には基準値から3.8ポイント増加しました。

**背景・要因等**

不安、負担を感じる母親の割合が増加した要因として、男性の働き方改革が進まず、長時間労働が解消しないため、男性の家事育児参画が進まないことが背景にあると考えられます。

※は数値が低い方が良くなる指標です。

KPI達成に向けた取組・成果

| 取組  | 成果   |
|---|--|
| 取組①<br>企業や団体などと連携した「なら子育て応援団」の取組を引き続き実施しました。また、県内の子育て支援団体などとも連携し、体罰によらない子育てを応援する取組を進めました。 | 成果①<br>子育て応援団協賛企業の情報だけでなく、親子連れが参加できる県のイベントの周知など、より幅広い情報提供を行った結果、応援団利用登録者数が着実に増加しました。 |
| 取組②<br>市町村に対し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供するための、子ども家庭総合支援拠点の県内すべての市町村における設置に向け、働きかけました。       | 成果②<br>各市町村へ個別の働きかけを行ったことにより、設置市町村数は大幅に増加しました。                                       |

| KPI関連指標                      | 指標の動き           |                  |                |                  | 指標の動きの要因       |                  |                |                                 |
|------------------------------|-----------------|------------------|----------------|------------------|----------------|------------------|----------------|---------------------------------|
| なら子育て応援団利用登録者数 [累計](人)       | H30年度<br>36,676 | ↗<br>+4,916<br>人 | R1年度<br>41,592 | ↗<br>+2,810<br>人 | R2年度<br>44,402 | ↗<br>+3,360<br>人 | R3年度<br>47,762 | 応援団利用登録者に対し、より幅広い情報提供を実施しました。   |
| 市町村子ども家庭総合支援拠点の設置数 [累計](市町村) | H30年度<br>4      | ↗<br>+3<br>市     | R1年度<br>7      | ↗<br>+4<br>市     | R2年度<br>11     | ↗<br>+13<br>市    | R3年度<br>24     | 市町村への設置の働きかけ(個別訪問による説明等)を行いました。 |

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

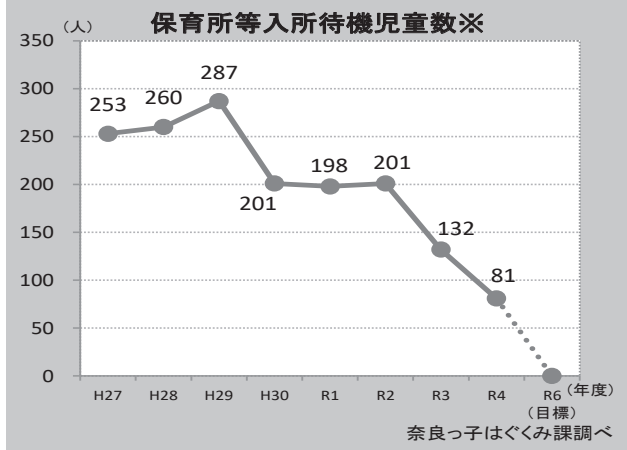
| KPI達成等に向けた課題  | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針   |
|---|--|---|
| 企業や地域と連携した父親の子育て参画及び育児休暇取得の促進、また、夫婦が一体感をもって子育てに取り組むことに対する社会的機運の醸成が必要です。 | 地域社会全体で子育てを応援する機運の高まりが十分ではなく、子育てへの職場の理解が深まっていません。また、母親のワンオペ育児が解消されていないことや子育てへの不安感が払拭されていないことが背景にあると考えられます。 | 「なら子育て応援団」登録世帯に対し、5千円分のクーポンを配布する「奈良っ子はぐくみキャンペーン」、体罰によらない「ゆったり子育て」研修などの取組を実施し、子育て世帯の経済的・精神的負担の軽減につなげます。また、「なら子育て応援団」協賛企業の新規加入を促し、地域社会全体で子育てを応援する環境づくりを推進します。 |
|   | 今年度の取組(~7月)<br>「奈良っ子はぐくみキャンペーン」特設サイト開設準備、体罰によらない「ゆったり子育て」研修の募集を開始しました。                                     | 引き続き、県内全ての市町村に対して、子ども家庭総合支援拠点の設置を促します。子どもとその家庭、妊産婦等を対象として、相談対応、継続的なソーシャルワーク等を行うことにより、安心して子育てができる体制を整えます。  |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                   |
|-----|-------------------|
| 坊   | 9 地域で子どもを健やかに育てる  |
| テーマ | (46) 保育の量の確保と質の向上 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| こども・女性局         |
| 奈良っ子はぐくみ課長      |

| 戦略目標(KPI)                  |
|----------------------------|
| 令和6年度末までに保育所等入所待機児童を0にします。 |



| 基準値   | 実績値(a) | 進捗状況   |          | 目標値(達成率)  |
|-------|--------|--------|----------|-----------|
|       |        | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |           |
| H27年度 | R4年度   | R4年度   | 69.4%    | R6年度      |
| 253   | ▲172人  | 81     | ③90%未満   | 0 (68.0%) |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

県内の待機児童数は平成29年度まで増加傾向から、平成30年度に減少に転じ、以降は横ばいの状況が続いていましたが、直近2年間で約60%減少しています。

背景・要因等

施設の新築・増改築への支援を通じて保育所等の定員が増加したこと等により、待機児童数が大きく減少しました。

※は数値が低い方が良くなる指標です。

KPI達成に向けた取組・成果

| 取組   | 成果   |
|--|--|
| 取組① 「奈良県保育人材バンク」を運営し、求人・求職情報のマッチングや合同就職説明会の実施等により、保育施設への保育士等の就職を支援しています。 | 成果① 保育人材の確保を図るため、潜在保育士等の保育施設への就職につなげています。  |
| 取組② キャリアパスに基づく体系的な研修の実施を通じて、保育士の資質向上と処遇の改善を目指し、保育士の離職防止・定着を図っています。       | 成果② 保育士キャリアアップ研修を実施し、県内の保育施設に勤務する保育士のキャリアアップを推進しています。令和3年度は、7分野において延べ1,633人が研修を修了しました。 |

| KPI関連指標                   | 指標の動き  |       |        |       |        |       | 指標の動きの要因                      |
|---------------------------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-------------------------------|
| 県内保育所等の定員数[累計](人)         | H30年度  | ↗     | R1年度   | ↗     | R2年度   | ↗     | 市町村による保育施設の整備を支援しました。         |
|                           | 27,934 | +206人 | 28,140 | +374人 | 28,514 | +293人 |                               |
| 奈良県保育人材バンクによる就職マッチング件数(件) | H30年度  | ↗     | R1年度   | ↗     | R2年度   | ↘     | 新型コロナウイルス感染症の影響で就職希望者が減少しました。 |
|                           | 60     | +19件  | 79     | +3件   | 82     | ▲16件  |                               |

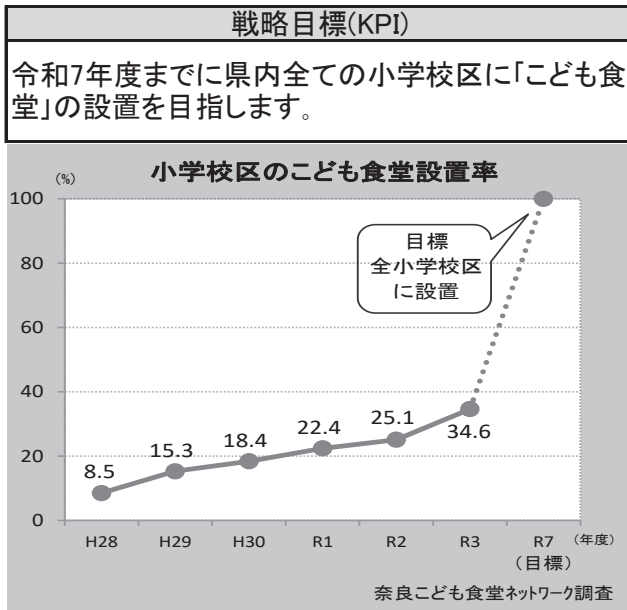
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

| KPI達成等に向けた課題  | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針  |
|---|--|--|
| 保育ニーズの増加に対し保育施設の整備が着実に進んでいる一方で、保育士の十分な確保が困難であることが課題となっています。 | 特に、保育士を多く配置する必要がある3歳未満の低年齢児において保育ニーズの増加が大きく、この低年齢児層において待機児童が多く発生しています。 | 市町村が行う保育施設の新設・増改築を支援し、保育ニーズを満たすための施設定員の増加を図ります。<br><br>保育人材バンクの運営により求人・求職者のマッチングを進めるとともに、子育ての仕事就職応援フェアを開催するなど、潜在保育士等の保育施設への就職を促進します。 |
|   | 今年度の取組(~7月)  |  |
|   | 引き続き、保育人材バンクの運営を行いました。   |  |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                         |
|-----|-------------------------|
| 坊   | 9 地域で子どもを健やかに育てる        |
| テーマ | (47) 子どもの居場所づくりと里親制度の普及 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| こども・女性局         |
| こども家庭課長         |



| 基準値   | 実績値(a)                | 進捗状況   |          | 目標値(達成率)       |
|-------|-----------------------|--------|----------|----------------|
|       |                       | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |                |
| H28年度 | R3年度                  | R3年度   | 58.3%    | R7年度           |
| 8.5   | +26.1<br>ポイント<br>34.6 | 59.3   | ③90%未満   | 100<br>(28.5%) |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

令和3年度の「こども食堂」の設置率は、34.6%で、基準値より26.1ポイント増加しました。令和4年5月現在、県内188小学校区のうち、68校区に「こども食堂」が設置されています。

背景・要因等

デリバリー等により弁当等を届ける活動に対する補助や、県こども食堂コーディネーターによる開設・運営支援の結果、新型コロナウイルス感染症拡大下においても「こども食堂」の数が増加しました。

| KPI達成に向けた取組・成果 |   |     |   |
|----------------|---|-----|---|
| 取組①            | こども食堂の啓発を行うとともに、県こども食堂コーディネーターを配置し、こども食堂の開設・運営等の支援のほか、フードバンク活動団体と連携し、希望するこども食堂に未利用物品が届くようマッチングを行いました。 | 成果① | 県こども食堂コーディネーターの配置により、こども食堂の開設数とこども食堂サポーターの登録団体数が着実に増加しています。 |
| 取組②            | 地域の多様な主体(市町村・自治会等)が協同・参画し、新たな地域ネットワークを構築するための交流会を開催しました。  | 成果② | 実施市町村において、新たなこども食堂(4団体)が開設されました。                            |

(注)こども食堂サポーター… 協力者の確保や地元ネットワーク構築のアドバイス、食材の提供等個別支援により、財源の支援や物品の寄付でこども食堂を応援する団体

| KPI関連指標                 | 指標の動き |              |      |              |      |              | 指標の動きの要因 |                                  |
|-------------------------|-------|--------------|------|--------------|------|--------------|----------|----------------------------------|
|                         | H30年度 | 変化           | R1年度 | 変化           | R2年度 | 変化           |          | R3年度                             |
| こども食堂サポーター登録団体数[累計](団体) | 6     | +3<br>団体     | 9    | +0<br>団体     | 9    | +1<br>団体     | 10       | 企業や民間団体の協力を得て「こども食堂」の活動を拡充しています。 |
| 施設・里親等養育委託における里親委託率(%)  | 18.1  | ▲0.3<br>ポイント | 17.8 | +0.6<br>ポイント | 18.4 | +2.8<br>ポイント | 21.2     | 里親制度の周知を図るためパンフレットの配布を行いました。     |

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

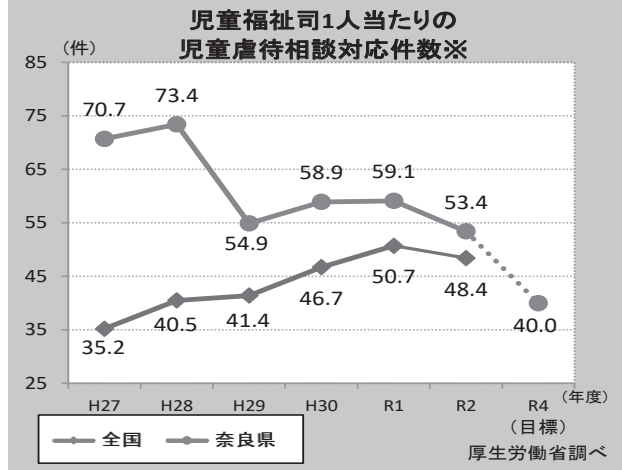
| KPI達成等に向けた課題                      | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針  |
|-----------------------------------|--|--|
| こども食堂のさらなる普及には、相談体制・補助制度の周知が必要です。 | 運営主体の多くがボランティア団体であり、自主的かつ自立的に運営されるものであるため、普及には時間を要します。 | こども食堂を安心して利用できるよう、安心・安全こども食堂認証制度を創設し、衛生用品購入経路等を支援します。また、地域の多様な主体が参画するこども食堂への補助を行います。 |
|                                   | 今年度の取組(~7月)  |  |
|                                   | こども食堂の普及を目指し、補助要綱の整備を行いました。                            | 引き続きこども食堂コーディネーターによる相談対応・物品のマッチング・補助制度の周知等を行います。                                     |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                  |
|-----|------------------|
| 坊   | 9 地域で子どもを健やかに育てる |
| テーマ | (48) 児童虐待防止      |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| こども・女性局         |
| こども家庭課長         |

**戦略目標(KPI)**  
令和4年度までに児童福祉司1人当たりの児童虐待相談対応件数を40件以下にします。



※は数値が低い方が良くなる指標です。

| 基準値   | 実績値(a) | 進捗状況   |          | 目標値 (達成率)  |
|-------|--------|--------|----------|------------|
|       |        | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |            |
| H27年度 | 70.7   | R2年度   | 109.5%   | R4年度       |
|       | ▲17.3件 | 48.8   | ①100%以上  | 40 (56.4%) |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)  
児童福祉司1人当たりの児童虐待相談対応件数は、基準値より15.2件減少しており、全国値が増加傾向にある中、県の対応件数は減少傾向です。進捗率は49.5%で目標に向けて順調に推移しています。

**背景・要因等**  
全国的に人材不足の状況にある中、民間就職サイトを活用した人材確保・定着、職員の対応力向上研修の実施等による人材育成に取り組み、児童虐待対策・体制強化に努めたことが減少につながったと考えられます。

| KPI達成に向けた取組・成果 |   |
|----------------|---|
| 取組①            | 多くの経験者が心理判定員の採用選考試験(令和3年9月)を受験できるよう、年齢要件を緩和しました。また、専門性を重視し、熱意と意欲のある人材が受験できるよう、児童福祉司の採用選考試験(令和3年10月)から教養試験を廃止しました。 |
| 成果①            | 教養試験廃止後の試験において、3名の児童福祉司を新たに採用しました。  |
| 取組②            | 児童虐待相談への対応力強化のため、児童福祉司や市町村職員等を対象とした研修を実施しました。   |
| 成果②            | コロナ禍で、研修参加者数は減少傾向にありますが、対応力強化に繋げていきたい等の意見も多く、参加者の満足度は高いものとなっています。   |

| KPI関連指標                     | 指標の動き |     |      |     |      |      | 指標の動きの要因 |                                 |
|-----------------------------|-------|-----|------|-----|------|------|----------|---------------------------------|
| 市町村子ども家庭総合支援拠点の設置数[累計](市町村) | H30年度 | ↗   | R1年度 | ↗   | R2年度 | ↗    | R3年度     | 市町村への設置の働きかけ(個別訪問による説明等)を行いました。 |
|                             | 4     | +3  | 7    | +4  | 11   | +13  | 24       |                                 |
|                             |       | 市町村 |      | 市町村 |      | 市町村  |          |                                 |
| 市町村職員等の研修参加人数(人)            | H30年度 | ↘   | R1年度 | ↘   | R2年度 | ↘    | R3年度     | コロナ禍での研修中止・参加人数の制限等がありました。      |
|                             | 676   | ▲93 | 583  | ▲62 | 521  | ▲198 | 323      |                                 |
|                             |       | 人   |      | 人   |      | 人    |          |                                 |

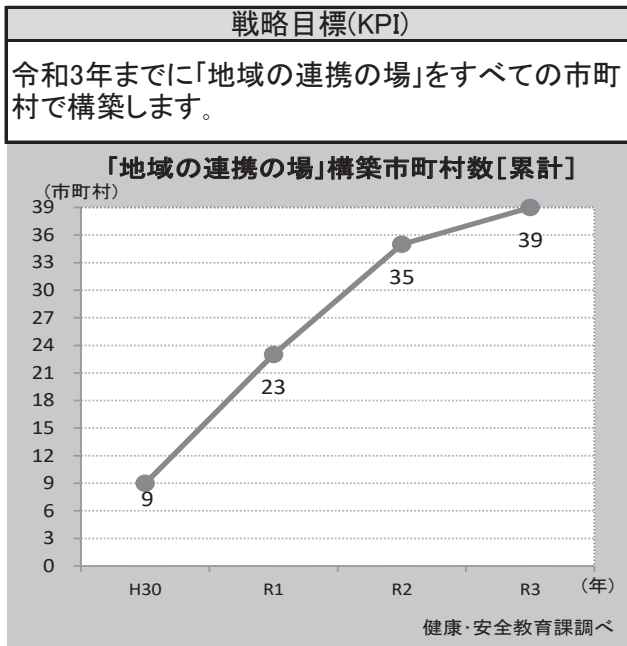
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

| KPI達成等に向けた課題                            | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針   |
|---|--|---|
| 県・市町村の専門職員の資質向上等の研修について、参加者数は減少傾向にあります。 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加人数の制限、研修の延期・中止等の措置をとらざるを得なかったことが要因として考えられます。 | コロナ禍が続く中においても、児童福祉に携わる職員の資質向上や県・市町村の職員の情報共有・連携強化を図るため、専門職員を対象とした研修の着実な実施、開催にあたっての柔軟な対応の検討等を進めていきます。 |
|   | <b>今年度の取組(～7月)</b>   |   |
|   | 令和4年5月の市町村児童虐待対策主管課長会議をオンラインにより開催しました。(過去2年は書面開催)                  | SNS相談における対応等、今後の相談環境の変化への対応力や知識も身につけられるよう、研修内容の充実を図っていきます。  |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                     |
|-----|---------------------|
| 坊   | 9 地域で子どもを健やかに育てる    |
| テーマ | (49) 子どもの通学通園路の安全確保 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| 教育委員会           |
| 健康・安全教育課長       |



| 基準値  | 実績値(a)           | 進捗状況   |          | 目標値(達成率)       |
|------|------------------|--------|----------|----------------|
|      |                  | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |                |
| H30年 | R3年              | R3年    | 100.0%   | R3年            |
| 9    | +30<br>市町村<br>39 | 39     | ①100%以上  | 39<br>(100.0%) |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

平成30年度に「登下校防犯プラン」に基づき、警察、教育委員会・学校、放課後児童クラブ・放課後子ども教室、自治体、保護者、PTA、地域のボランティア、自治会等の関係者が集まり、登下校時における防犯対策について意見交換・調整を行う「地域の連携の場」を構築することが推奨されました。以降、年度を重ねるごとに目標値に近づけてきました。この度、令和3年に目標としていた県内すべての市町村での設置を達成することができました。

背景・要因等

「奈良県通学路等安全対策推進会議」等を通じて各市町村に対し、重ねて依頼をしてきたことが、目標達成の要因です。

| KPI達成に向けた取組・成果 |   |     |  |
|----------------|---|-----|--|
| 取組①            | 県では、より安全で安心な通学路の設定に向け、知事を中心とした通学路等安全対策推進体制の構築に取り組みました。県の組織体制を参考に各市町村においても首長を中心とした組織体制の構築をすることを提案しました。 | 成果① | 県の組織体制を参考に各市町村においても首長を中心とした組織体制を構築することに、すべての市町村から賛同を得ることができました。また、「登下校防犯プラン」に基づく「地域の連携の場の構築」が進んでいなかった市町村が、県の通学路等安全対策推進体制をモデルとし、構成メンバーを入れ替えて流用することで「地域の連携の場」の構築につなぐことができたケースがありました。 |
| 取組②            | 各市町村において実施される通学路合同点検に県が同行し、第三者的な視点による安全対策案を提案しました。  | 成果② | 各市町村において実施される通学路合同点検に県が同行することにより、県全体で安全対策に取り組む体制がより強く推進されました。  |

| KPI関連指標                       | 指標の動き |              |      |               |      |               | 指標の動きの要因 |  |
|-------------------------------|-------|--------------|------|---------------|------|---------------|----------|--|
| 学校(園)における通学通園路の定期的な安全点検実施率(%) | H30年度 | ↗            | R1年度 | ↘             | R2年度 | →             | R3年度     | 新型コロナウイルス感染症の影響で実施を自粛した学校(園)がありました。                        |
|                               | 90.2  | +1.1<br>ポイント | 91.3 | ▲1.8<br>ポイント  | 89.5 | +0<br>ポイント    | 89.5     |  |
| 学校安全講習会・交通安全教室等安全教育の実施率(%)    | H30年度 | ↗            | R1年度 | ↘             | R2年度 | ↗             | R3年度     | 新型コロナウイルス感染症の影響により開催を自粛した学校が多くありましたが、令和3年度になり徐々に回復傾向にあります。 |
|                               | 91.0  | +1.4<br>ポイント | 92.4 | ▲22.8<br>ポイント | 69.6 | +12.4<br>ポイント | 82.0     |  |

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

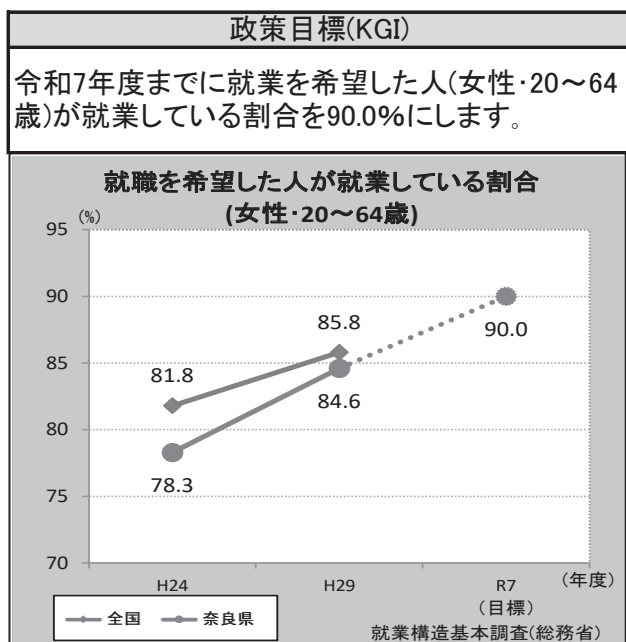
| KPI達成等に向けた課題                 | 課題の背景・要因  | 課題解決のための今後の取組方針  |
|------------------------------|---|--|
| 通学通園路デジタルマップを有効に活用する必要があります。 | 令和3年度に作成した通学通園路デジタルマップを活用して、より安全な通学通園路の設定に役立てるための方策を、県の関係各課と協議し、進めていく必要があります。<br><b>今年度の取組(～7月)</b><br>通学路デジタルマップに、千葉県八街市での事故を契機とした対策必要箇所の情報を上書きし、見える化を図りました。 | 関係各課による「実務担当者会議」、「県幹事会」、及び知事を中心とした「奈良県通学路等安全対策推進会議」を開催し、通学路デジタルマップを活用した情報の共有を図ります。また、各市町村の「通学路等安全対策推進体制」や「地域の連携の場」と連携し、組織的な通学通園路の安全確保の推進に努めます。<br>通学通園路の安全対策に加え、それを利用する児童生徒等に対し、通学路デジタルマップを活用した交通安全教育などを実施します。 |

Ⅲ 愉しむ「都」をつくる

|            |
|------------|
| 坊          |
| 10 女性活躍の推進 |

|         |
|---------|
| 担当部局等   |
| こども・女性局 |

政策目標(KGI)達成に向けた進捗状況



| 基準値  | 実績値(a)               | 進捗状況   |          | 目標値<br>(達成率)    |
|--|----------------------|--------|----------|-----------------|
|  |                      | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |                 |
| H24年度  | H29年度                | H29年度  | 102.2%   | R7年度            |
| 78.3   | +6.3<br>ポイント<br>84.6 | 82.8   | ①100%以上  | 90.0<br>(53.8%) |
| 指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)  |                      |        |          |                 |
| 就業を希望した人(女性・20～64歳)が就業している割合は着実に増加しており、平成29年度には基準値から6.3ポイント増加し、進捗率は100%を超えました。   |                      |        |          |                 |
| 背景・要因等   |                      |        |          |                 |
| 女性の就業環境の整備、保育所等の育児基盤や育児休業制度などの整備・充実、女性が働くことに関する社会全体の意識の変化などにより女性の就業割合は増加傾向にあります。 |                      |        |          |                 |

関連する戦略目標(KPI)の進捗状況

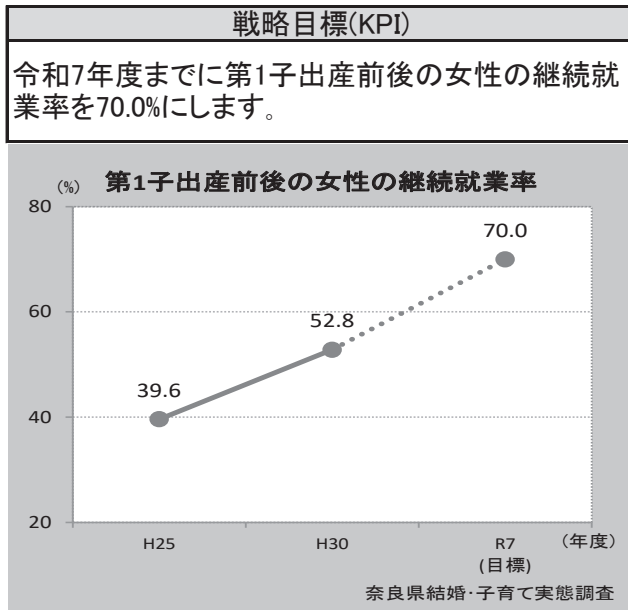
| テーマ                                 | 基準値   | 実績値(a)                | 進捗状況   |            | 目標値<br>(達成率)    |
|-------------------------------------|-------|-----------------------|--------|------------|-----------------|
| 戦略目標(KPI)                           |       |                       | 目安値(b) | 進捗率(a/b)   |                 |
| (50) 女性の幸せ応援プロジェクト                  | H25年度 | H30年度                 | H30年度  | 101.0%     | R7年度            |
| 令和7年度までに第1子出産前後の女性の継続就業率を70.0%にします。 | 39.6  | +13.2<br>ポイント<br>52.8 | 52.3   | ①100%以上    | 70.0<br>(43.4%) |
| (51) 子どもの貧困対策とひとり親家庭支援              | H26年度 | R1年度                  | R1年度   | 98.5%      | R6年度            |
| 令和6年度までにひとり親世帯(母子家庭)の就業率を95.0%にします。 | 90.6  | +0.8<br>ポイント<br>91.4  | 92.8   | ②(90～100%) | 95.0<br>(18.2%) |



各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 坊   | 10 女性活躍の推進         |
| テーマ | (50) 女性の幸せ応援プロジェクト |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| こども・女性局         |
| 女性活躍推進課長        |



| 基準値  | 実績値(a) | 進捗状況   |          | 目標値 (達成率)    |
|--|--------|--------|----------|--------------|
|  |        | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |              |
| H25年度  | H30年度  | H30年度  | 101.0%   | R7年度         |
| 39.6   | 52.8   | 52.3   | ①100%以上  | 70.0 (43.4%) |
| 指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)  |        |        |          |              |
| 平成30年度の第1子出産前後の女性の継続就業率は52.8%で、基準値より13.2ポイント増加し、進捗率は101.0%となりました。                                  |        |        |          |              |
| 背景・要因等   |        |        |          |              |
| 女性が働きやすい環境づくりが進んでいる事例の紹介など「なら女性活躍推進倶楽部」会員企業と連携した取組等により、多様な働き方など、職場において女性が活躍し続けるための環境整備が少しずつ進んでいます。 |        |        |          |              |

| KPI達成に向けた取組・成果 |  |  |
|----------------|--|--|
| 取組①            | 女性の再就職応援ジャーナル「FIELD」第3号を令和4年1月に発行しました。また、再就職を希望する女性と企業とのマッチングイベント「女性のための再就職応援フェスタ2022」を開催し、再就職を支援しました。 | 成果① 「女性のための再就職応援フェスタ2022」には、女性活躍推進倶楽部会員企業15社に参加していただき、44名の参加がありました。この取組をきっかけに就職につながった方もいます。    |
| 取組②            | 「なら女性活躍推進倶楽部」の取組や倶楽部企業の魅力を発信するため、テレビや新聞、倶楽部ニューズレターの発行を通して広く発信したほか、会員企業に対しても、倶楽部統一取組への参加を呼びかけました。       | 成果② 倶楽部統一取組に、倶楽部会員企業13社も参加して、11月の児童虐待防止月間「オレンジリボンキャンペーン」や女性に対する暴力をなくす運動「ハープルリボンキャンペーン」を実施しました。 |

| KPI関連指標                   | 指標の動き |                   |      |                   | 指標の動きの要因 |                   |      |   |
|---------------------------|-------|-------------------|------|-------------------|----------|-------------------|------|---|
| なら女性活躍推進倶楽部の登録企業数 [累計](社) | H30年度 | ↗                 | R1年度 | ↗                 | R2年度     | ↗                 | R3年度 | 県内の企業・団体等に対して、個別に働きかけた結果、企業数は着実に増加しました。 |
|                           | 101   | +14社              | 115  | +14社              | 129      | +9社               | 138  |   |
| 会員企業向けセミナー・交流会の参加者数 (人)   | H30年度 | ↘                 | R1年度 | ↘                 | R2年度     | ↘                 | R3年度 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止又は開催方法の見直しを行いました。  |
|                           | 174   | ▲ <sup>86</sup> 人 | 88   | ▲ <sup>17</sup> 人 | 71       | ▲ <sup>39</sup> 人 | 32   |   |

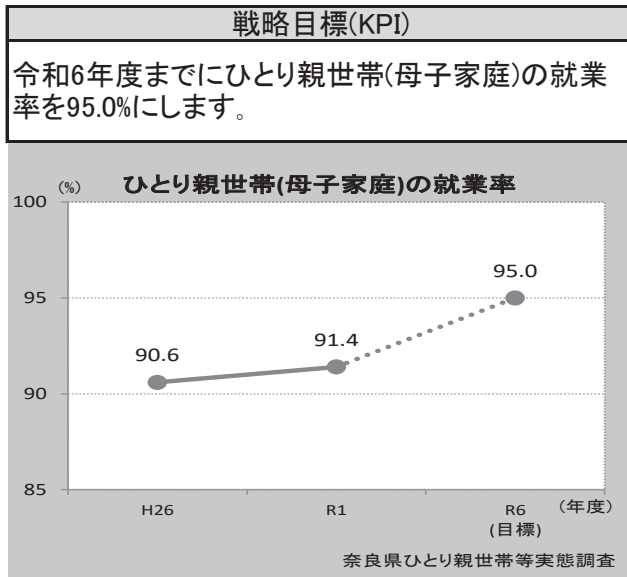
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

| KPI達成等に向けた課題                              | 課題の背景・要因  | 課題解決のための今後の取組方針   |
|---|---|---|
| 「なら女性活躍推進倶楽部」の取組内容や登録企業・事業所の更なる魅力発信が課題です。 | これまでの紙媒体での情報発信では周知などが十分ではなく、求人情報等と連携したホームページやSNSなど情報発信ツールのあり方の検討が必要と考えられます。 | 「なら女性活躍推進倶楽部」の登録企業等に対して、テレワークや短時間勤務などの働きやすい制度の普及や、男性の育児休暇の取得促進に向けた取組を進めていきます。 |
|   | 今年度の取組(~7月)<br>会員企業の企業情報や採用情報を紹介する「なら女性活躍推進倶楽部」ポータルサイトの充実に向けた準備を行いました。      |   |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                        |
|-----|------------------------|
| 坊   | 10 女性活躍の推進             |
| テーマ | (51) 子どもの貧困対策とひとり親家庭支援 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| こども・女性局         |
| こども家庭課長         |



| 基準値   | 実績値(a) | 進捗状況   |            | 目標値(達成率)     |
|---|--------|--------|------------|--------------|
|   |        | 目安値(b) | 進捗率(a/b)   |              |
| H26年度   | R1年度   | R1年度   | 98.5%      | R6年度         |
| 90.6  | 91.4   | 92.8   | ②(90~100%) | 95.0 (18.2%) |
| 指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)   |        |        |            |              |
| 令和元年度のひとり親世帯(母子家庭)の就業率は91.4%で、基準値から0.8ポイント増加しました。   |        |        |            |              |
| 背景・要因等  |        |        |            |              |
| 令和元年度「奈良県子どもの生活に関する実態調査」において、非就業のひとり親のうち、「仕事をする希望がある」と答えた方は全体の88%以上となっており、就業への意識の高さが1つの要因になっていると推測されます。 |        |        |            |              |

| KPI達成に向けた取組・成果 |   |
|----------------|---|
| 取組①            | 令和3年度に「奈良県第2次子どもの貧困対策及び第4次ひとり親家庭等自立促進計画」を策定しました。計画の基本目標は、経済的困難等の状況の子育て家庭が、自立・安定した生活の中で孤立せず、子どもの伸びていく力を育めるよう支援することとしました。       |
| 成果①            | 市町村や関係機関・団体等との適切な役割分担と連携により、計画に基づく施策に着手しました。  |
| 取組②            | 就業相談や就業支援講習会などの実施、就職に有利な資格取得のための給付や貸付、緊急時に家事・育児を助けるヘルパー派遣など、ひとり親家庭の経済的支援・生活支援を行いました。また、求職者ニーズに応じた就職マッチング(自立支援プログラムの策定)を行いました。 |
| 成果②            | 看護師や保育士などの資格取得のための給付金の支給や疾病等の緊急時に家事・育児を助けるヘルパーの派遣(令和3年度127件)を行いました。令和3年度の就業相談実績は、延べ1,017人、延べ2,279件、就職実績は74人でした。               |

| KPI関連指標            | 指標の動き |      |      |      |      |      | 指標の動きの要因                     |
|--------------------|-------|------|------|------|------|------|------------------------------|
| 就業支援バンク登録者数[累計](人) | H30年度 | ↗    | R1年度 | ↘    | R2年度 | ↗    | 支援員が登録を案内するなどきめ細かな支援を実施しました。 |
|                    | 343   | +22人 | 365  | ▲50人 | 315  | +21人 |                              |
| 就業実績(延べ人数)[累計](人)  | H30年度 | →    | R1年度 | ↘    | R2年度 | ↗    | 支援員によるきめ細かな就業支援を実施しました。      |
|                    | 109   | +0人  | 109  | ▲18人 | 91   | +9人  |                              |

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

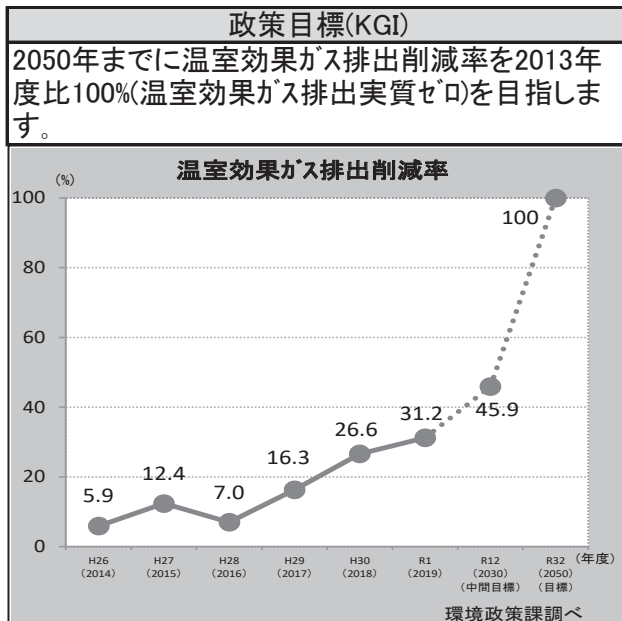
| KPI達成等に向けた課題                   | 課題の背景・要因  | 課題解決のための今後の取組方針   |
|--------------------------------|---|---|
| ひとり親が利用できるサービスや制度が十分に知られていません。 | ひとり親はひとりですべてを背負わないといけない負担から、受けられる支援制度やサービスについて調べる時間的余裕のない方が多いと考えられます。   | 児童扶養手当現況届時等にあわせ、市町村と協力し、ひとり親コンシェルジュによるひとり親のための相談窓口を設けます。<br><br>ひとり親支援のための制度や取組について効果的な広報、周知の方法を検討していきます。 |
|                                | 今年度の取組(~7月)<br>スマイルセンターに「ひとり親コンシェルジュ」を配置し、必要に応じて個別訪問対応するなど、相談体制を拡充しました。 |   |

Ⅲ 愉しむ「都」をつくる

|                  |
|------------------|
| 坊                |
| 11 脱炭素時代のエネルギー政策 |

|              |
|--------------|
| 担当部局等        |
| 水循環・森林・景観環境部 |

政策目標(KGI)達成に向けた進捗状況



| 基準値   | 実績値(a)       | 進捗状況   |          | 目標値<br>(達成率)   |
|---|--------------|--------|----------|----------------|
|   |              | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |                |
| H26年度   | R1年度<br>31.2 | R1年度   | 164.5%   | R32年度          |
| 5.9   |              | 19.0   | ①100%以上  | 100<br>(26.9%) |
| 指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)   |              |        |          |                |
| 温室効果ガス排出削減率は平成26年度の5.9%から令和元年度には31.2%となり、順調に進捗しています。  |              |        |          |                |
| 背景・要因等  |              |        |          |                |
| 奈良県環境総合計画及び奈良県エネルギービジョンに基づき、省エネ・節電等の推進、再生可能エネルギーを活用した地域の取組への支援の実施により、温室効果ガスの排出削減施策を推進してきました。2050年ゼロカーボンに向け、さらに取組を強化する必要があります。 |              |        |          |                |

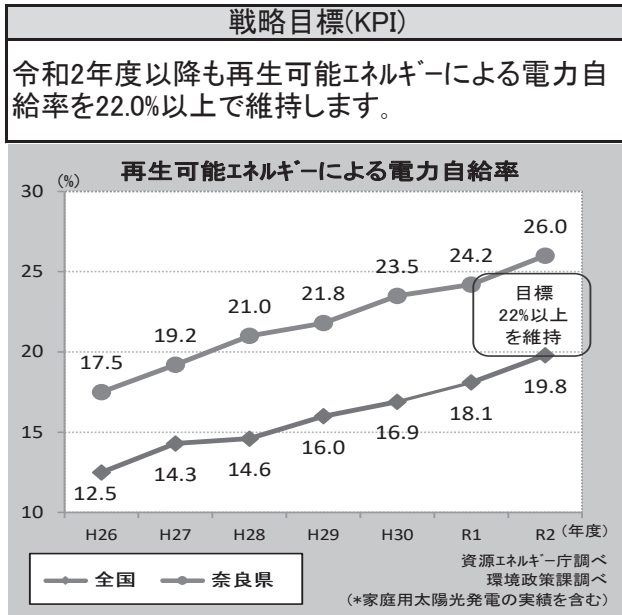
関連する戦略目標(KPI)の進捗状況

| テーマ                                      | 基準値           | 実績値(a)       | 進捗状況   |          | 目標値<br>(達成率)        |
|--|---------------|--------------|--------|----------|---------------------|
| 戦略目標(KPI)                                |               |              | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |                     |
| (52) 脱炭素時代の奈良県エネルギー政策                    | H26年度<br>17.5 | R2年度<br>26.0 | /      |          | 令和2年度以降<br>22%以上を維持 |
| 令和2年度以降も再生可能エネルギーによる電力自給率を22.0%以上で維持します。 |               |              |        |          |                     |
| 令和7年度までに木材生産量を20万m <sup>3</sup> にします。    | H27年度         | R2年度         | R2年度   | 84.6%    | R7年度                |
|  | 171           | 157          | 185.5  | ③90%未満   | 200<br>(基準値未満)      |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| 坊   | 11 脱炭素時代のエネルギー政策      |
| テーマ | (52) 脱炭素時代の奈良県エネルギー政策 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| 水循環・森林・景観環境部    |
| 環境政策課長          |



| 基準値   | 実績値(a)       | 進捗状況   |               | 目標値<br>(達成率)        |
|---|--------------|--------|---------------|---------------------|
|   |              | 目安値(b) | 進捗率(a/b)      |                     |
| H26年度   | R2年度<br>26.0 | 17.5   | + 8.5<br>ポイント | 令和2年度以降<br>22%以上を維持 |
| 指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)   |              |        |               |                     |
| 再生可能エネルギーによる電力自給率は令和2年度で26.0%と、基準値より上昇しており、奈良県は全国平均より高い水準で推移しています。  |              |        |               |                     |
| 背景・要因等  |              |        |               |                     |
| 再生可能エネルギーによる電力自給率は、再エネの導入量が順調に進んでいることと、省エネが予想以上に進んだことから、第3次奈良県エネルギービジョンが掲げた目標(22%以上)を達成しました。第4次奈良県エネルギービジョンでは、令和6年度までに30.0%とする目標を掲げ、取組を強化します。 |              |        |               |                     |

| KPI達成に向けた取組・成果 |  |     |  |
|----------------|--|-----|--|
| 取組①            | 緊急時対策の観点からも再生可能エネルギーの導入を推進するため、「奈良県地域エネルギー資源活用アドバイザー」の派遣や設備整備に対する支援を実施しています。               | 成果① | FIT制度による再生可能エネルギー(面積1km <sup>2</sup> 当たり)設備容量で見ると、再生可能エネルギーは全国と同様に奈良県でも導入が進んでいます。          |
| 取組②            | 本県の二酸化炭素排出の部門別内訳は、全国と比べて家庭部門および運輸部門の割合が大きいことから、住宅用の省エネ・再エネ設備の導入の一環として太陽熱利用システムの導入を支援しています。 | 成果② | 1,000世帯当たりの太陽熱利用システム導入件数は、平成29年度から令和2年度の間で、全国では13.08件から14.02件、奈良県では6.43件から6.75件と微増となっています。 |

| KPI関連指標  | 指標の動き           |                                    |                 |                                    | 指標の動きの要因       |                                    |                |                                |
|--|-----------------|------------------------------------|-----------------|------------------------------------|----------------|------------------------------------|----------------|--------------------------------|
| FIT制度による再生可能エネルギー(面積1km <sup>2</sup> 当たり)設備容量[累計](kw/km <sup>2</sup> ) | H29年度<br>133.08 | ↑<br>+ 16.93<br>kw/km <sup>2</sup> | H30年度<br>150.01 | ↑<br>+ 18.28<br>kw/km <sup>2</sup> | R1年度<br>168.29 | ↑<br>+ 18.29<br>kw/km <sup>2</sup> | R2年度<br>186.58 | 再生可能エネルギーの導入を促進しました。           |
| 1,000世帯当たり太陽熱利用システム導入件数[累計](件)   | H29年度<br>6.43   | ↑<br>+ 0.11<br>件                   | H30年度<br>6.54   | ↑<br>+ 0.10<br>件                   | R1年度<br>6.64   | ↑<br>+ 0.11<br>件                   | R2年度<br>6.75   | 創エネルギー・蓄エネルギーシステム導入への支援を行いました。 |

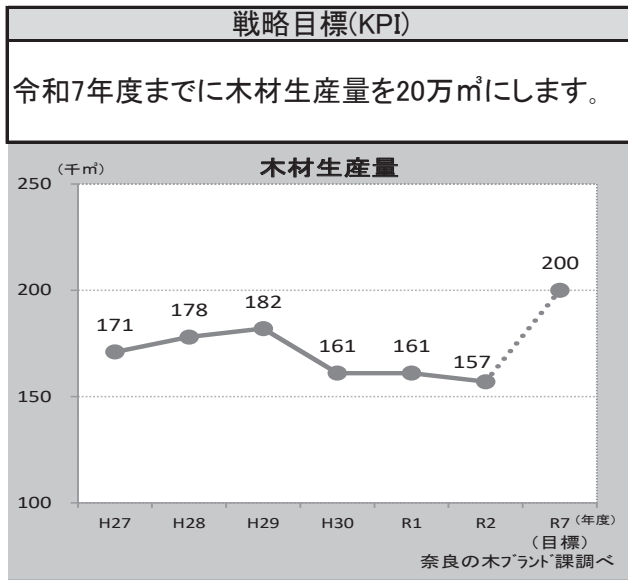
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

| KPI達成等に向けた課題                     | 課題の背景・要因  | 課題解決のための今後の取組方針   |
|----------------------------------|---|---|
| 持続可能な脱炭素社会の構築に向け、本県独自の制度設計が必要です。 | 2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることを宣言し、脱炭素エネルギー政策とCO2吸収源の整備となる森林環境管理政策を両輪で実行することが必要です。 | 脱炭素社会構築に資する各部局の施策を集約し、体系整理した上で目標設定とともに、脱炭素アクションプランとして年度内にとりまとめます。 |
|                                  | 今年度の取組(~7月)<br>県内の産学官が連携した仕組を活用し、家庭・事業所等への省エネ・再エネ設備導入支援を実施しました。                 | 家庭や事業所への自立分散型エネルギーの導入支援や、エネルギーをかきこく使う取組を推進します。                    |

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| 坊   | 11 脱炭素時代のエネルギー政策      |
| テーマ | (52) 脱炭素時代の奈良県エネルギー政策 |

|                 |
|-----------------|
| CC(チーフコーディネーター) |
| 水循環・森林・景観環境部    |
| 環境政策課長          |



| 基準値   | 実績値(a)                  | 進捗状況   |          | 目標値(達成率)       |
|-------|-------------------------|--------|----------|----------------|
|       |                         | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |                |
| H27年度 | R2年度                    | R2年度   | 84.6%    | R7年度           |
| 171   | ▲14<br>千 <sup>3</sup> m | 185.5  | ③90%未満   | 200<br>(基準値未満) |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

木材(原木)生産量の実績値について、平成27年度から平成29年度までは増加傾向を示しましたが、平成30年度以降は減少傾向を示しており、基準値を下回っています。

背景・要因等

住宅、公共建築物、商業施設や宿泊施設、暮らしの中で用いる木製品、エネルギーなど、多岐にわたる分野での県産材利用に向けた施策を推進してきました。その結果、エネルギー利用に向けられる木材生産量は堅調に増加しましたが、建築物等への利用が減少しており、全体として、進捗率は低い水準となっています。

| KPI達成に向けた取組・成果 |  |     |   |
|----------------|--|-----|---|
| 取組①            | 木質バイオマスの利用によるエネルギーの地産地消を目的に、県内市町村等を対象とした地域内エコシステム勉強会を開催しました。   | 成果① | 県内の2市村において、地域内の木質バイオマス資源(薪)を温浴施設へ供給する仕組みによる木質バイオマスエネルギー利用の取り組みが令和4年度より始まりました。 |
| 取組②            | 公共建築物等への県産材の利用促進を目的に、建築関係団体と連携し、木材利用の意義、木造・木質化のメリット、木造建築物ができるまでの流れ、木造・木質化の事例などをわかりやすく解説した、発注者向け手引きを作成しました。 | 成果② | 発注者向け手引きを各市町村等へ配布・共有することで、建築物の木造・木質化に取り組みやすくなるような環境整備が進みました。                  |

| KPI関連指標                      | 指標の動き  |                          |        |                        |        |                           | 指標の動きの要因   |
|------------------------------|--------|--------------------------|--------|------------------------|--------|---------------------------|--|
| 燃料チップ用原木供給量(m <sup>3</sup> ) | H29年   | ↘                        | H30年   | ↘                      | R1年    | ↗                         | 新たな森林環境管理制度推進の上で発生する伐採木の搬出を促進することで、燃料チップ用原木の確保に取り組んでいます。 |
|                              | 47,645 | ▲7,672<br>m <sup>3</sup> | 39,973 | ▲80<br>m <sup>3</sup>  | 39,893 | +10,436<br>m <sup>3</sup> |  |
| 県産製材品出荷量(千 <sup>3</sup> m)   | H29年   | ↘                        | H30年   | ↘                      | R1年    | ↘                         | 木材加工流通施設の設備整備支援等に取り組んでいますが、建築物等への利用が減少傾向にあります。           |
|                              | 76     | ▲5<br>千 <sup>3</sup> m   | 71     | ▲7<br>千 <sup>3</sup> m | 64     | ▲9<br>千 <sup>3</sup> m    |  |

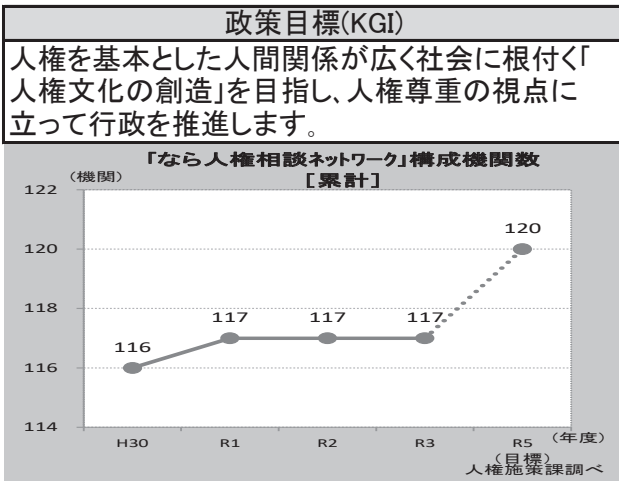
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

| KPI達成等に向けた課題        | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針  |
|---------------------|--|--|
| 県産製材品出荷量が減少傾向にあります。 | 県産製材品の主な使用先である木造住宅の着工数が減少しました。近年の木造建築では、JAS材などの品質・性能が明らかな木材が求められます。また、建築関係者や消費者に、県産材(奈良の木)の利用の意義が十分に伝わっていない可能性があります。 | 木材加工流通施設の設備整備による木材加工の効率化等により、地域認証材やJAS材など品質・性能が明らかで競争力のある製品の流通を促進します。また、林内路網の整備、高性能林業機械等の導入による生産基盤の強化に加え、木材の搬出支援や未利用材の搬出促進を図ります。 |
|                     | 今年度の取組(～7月)  |  |

政策目標(KGI)達成に向けた進捗状況

人権を尊重した社会づくり

CC(チーフコーディネーター)  
文化・教育・くらし創造部 人権施策課長



| 基準値   | 実績値(a)   | 進捗状況   |          | 目標値(達成率)       |
|-------|----------|--------|----------|----------------|
|       |          | 目安値(b) | 進捗率(a/b) |                |
| H30年度 | ↑        | R3年度   | R3年度     | 98.8%          |
| 116   | +1<br>機関 | 117    | 118.4    | ②(90~100%)     |
|       |          |        |          | 120<br>(25.0%) |

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)  
前年からの総数に増減はありませんが、引き続き各機関の参画を得ることができました。

背景・要因等  
相談体制を充実させるため、人権問題に取り組む団体の発掘に努めました。相談員の研修会等で、なら人権相談ネットワークへの加入の働きかけを行うなど、目標値の120機関を目指し、取り組んでいます。

| KGI達成に向けた取組・成果   |  |
|--|--|
| 取組①<br>県民一人ひとりが人権問題に関する正しい知識を習得し、考え話し合っ問題解決する技能を培い、これを日常の態度として身につける学習の機会を提供するため、年間を通じ研修会や講演会等を開催しました。また、多くの人々が楽しみながら人権を身近に感じ、同和問題をはじめとする人権問題について理解を深めることを目的として、「なら・ヒューマンフェスティバル」を開催しました。 | 成果①<br>研修会等の参加者からは、「差別意識と向き合い、『自分自身はどうか』と深く考えさせられた」等の感想がありました。フェスティバル会場においては「パネル展示している人権のハンドブックはどこで手に入るか」と質問される方や、趣旨に共感しSNSで発信いただいた方等がおられました。              |
| 取組②<br>自分の大切さとともに、他の人の大切さが認められていることを実感できるような環境づくり(「一人一人が大切にされる『場』づくり」)を、あらゆる教育の場で進めるよう、各種研修講座等での指導助言を行いました。  | 成果②<br>児童生徒が悩みを相談できる体制づくりは89.8%となり、前年の91.1%より1.3ポイント低下しました。保護者に対する教育相談の実施は88.3%となり、前年の86.6%から1.7ポイント増加しています。また、男女混合名簿の利用は86.1%となり、前年の82.5%から3.6ポイント増加しました。 |

| KGI関連指標                     | 指標の動き   |              |         |              |         |              | 指標の動きの要因                              |
|-----------------------------|---------|--------------|---------|--------------|---------|--------------|---------------------------------------|
| 「なら人権相談ネットワーク」構成機関での相談件数(件) | H30年度   | ↘            | R1年度    | ↘            | R2年度    | ↗            | 新型コロナウイルス感染症に関連した人権相談等により件数が増加しました。   |
|                             | 142,659 | ▲3,890<br>件  | 138,769 | ▲5,642<br>件  | 133,127 | +9,335<br>件  |                                       |
| 人権教育推進体制の整備率(%)             | H30年度   | ↗            | R1年度    | ↘            | R2年度    | ↗            | 全教職員による人権教育に関する取組の交流及び点検・評価の実施を促しました。 |
|                             | 87.4    | +2.7<br>ポイント | 90.1    | ▲8.5<br>ポイント | 81.6    | +1.0<br>ポイント |                                       |

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

| KGI達成等に向けた課題   | 課題の背景・要因   | 課題解決のための今後の取組方針   |
|--|--|---|
| ①「なら人権相談ネットワーク」構成機関数が伸び悩んでいます。<br>②普段、人権問題への関心が薄い層への啓発が必要です。 | ①過年度には「なら人権相談ネットワーク」への新規加入もありましたが、同時に他の窓口の統合・廃止等があり、構成機関数に変化がありません。<br>②年間を通じ、研修会や講演会等を開催していますが、普段から人権問題に関心が高い層への啓発が中心となっています。 | ①今後も、人権問題に取り組む団体の発掘に努め、相談員の研修会等で、ネットワークへの加入の働きかけを行います。<br><br>②普段、人権問題への関心が薄い層も興味を持てるような、社会情勢に応じたテーマでの講座開催に努めます。また、楽しみながら人権問題について理解を深める機会として開催予定の「なら・ヒューマンフェスティバル」について、県民への周知に努めます。 |
|  | 今年度の取組(～7月)  |   |